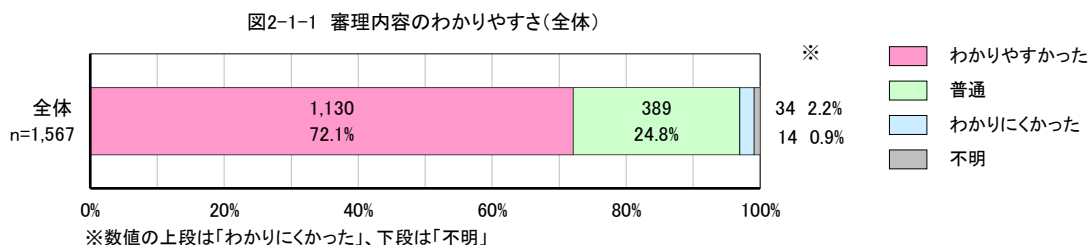


2. 補充裁判員に対するアンケート結果

(1) 審理について

(i) 審理内容のわかりやすさ

問1 審理の内容はわかりやすかったですか。



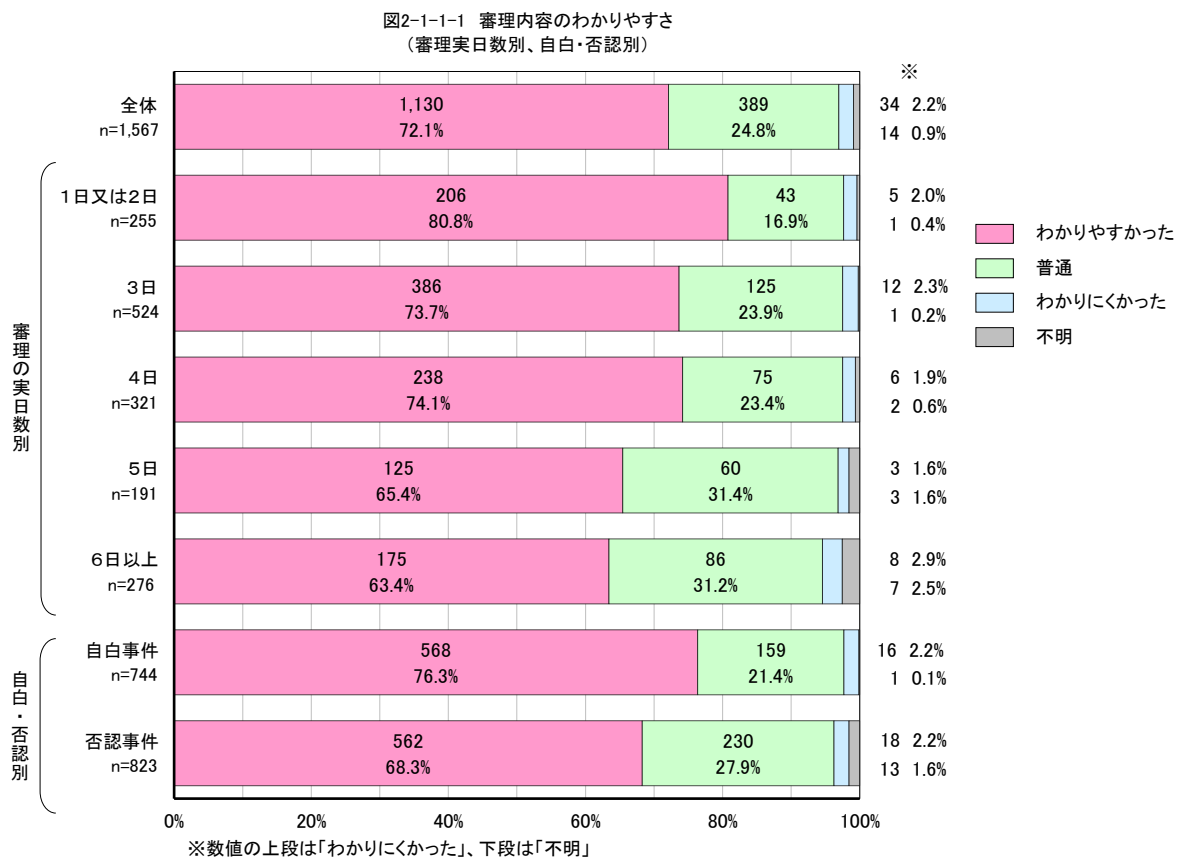
審理の内容が「わかりやすかった」とする回答は72.1%であり（「普通」とあわせて96.9%）、「わかりにくかった」とする回答は2.2%である。

【他のデータとのクロス集計】

『審理内容のわかりやすさ』を審理実日数別、自白・否認別でみたのが、図2-1-1-1である。

「わかりやすかった」と回答した割合は、審理実日数が1日又は2日の場合、80.8%と最も高く、審理実日数が6日以上の場合、63.4%と最も低くなっており、審理実日数が長くなるほど「わかりやすかった」と回答した者の割合が低下する傾向がみられる。

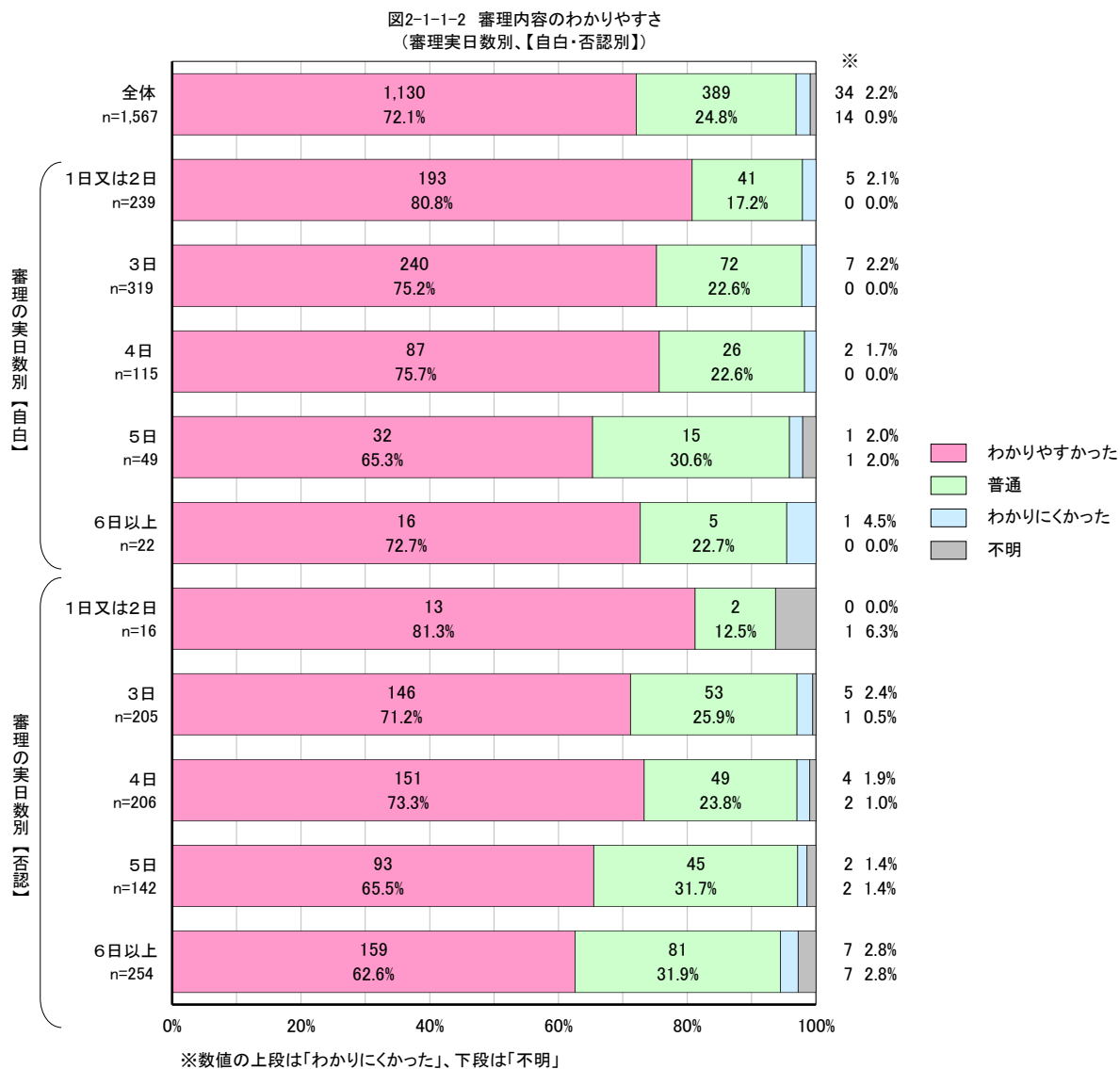
自白・否認別では、「わかりやすかった」との回答が、自白事件において76.3%であり、否認事件（68.3%）を上回っている。



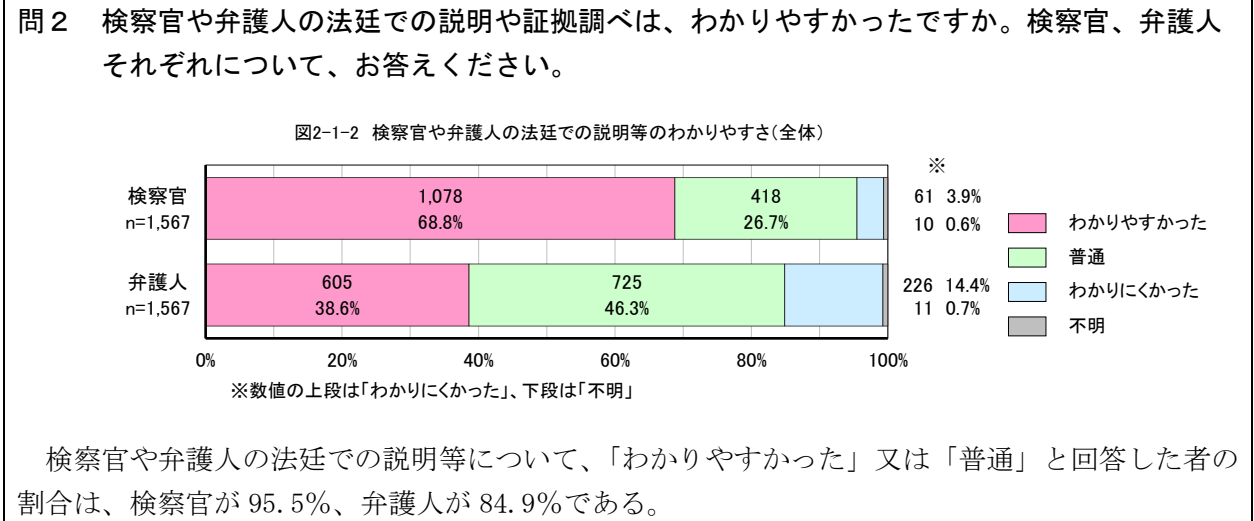
『審理内容のわかりやすさ』について、審理実日数別をさらに自白・否認別で区分したのが、図2-1-1-2である。

自白事件については、「わかりやすかった」と回答した割合は、審理実日数が1日又は2日の場合80.8%と最も高く、5日の場合65.3%と最も低くなっている。

また、否認事件については、「わかりやすかった」と回答した割合は、審理実日数が1日又は2日の場合81.3%と最も高く、6日以上の場合62.6%と最も低くなっている。



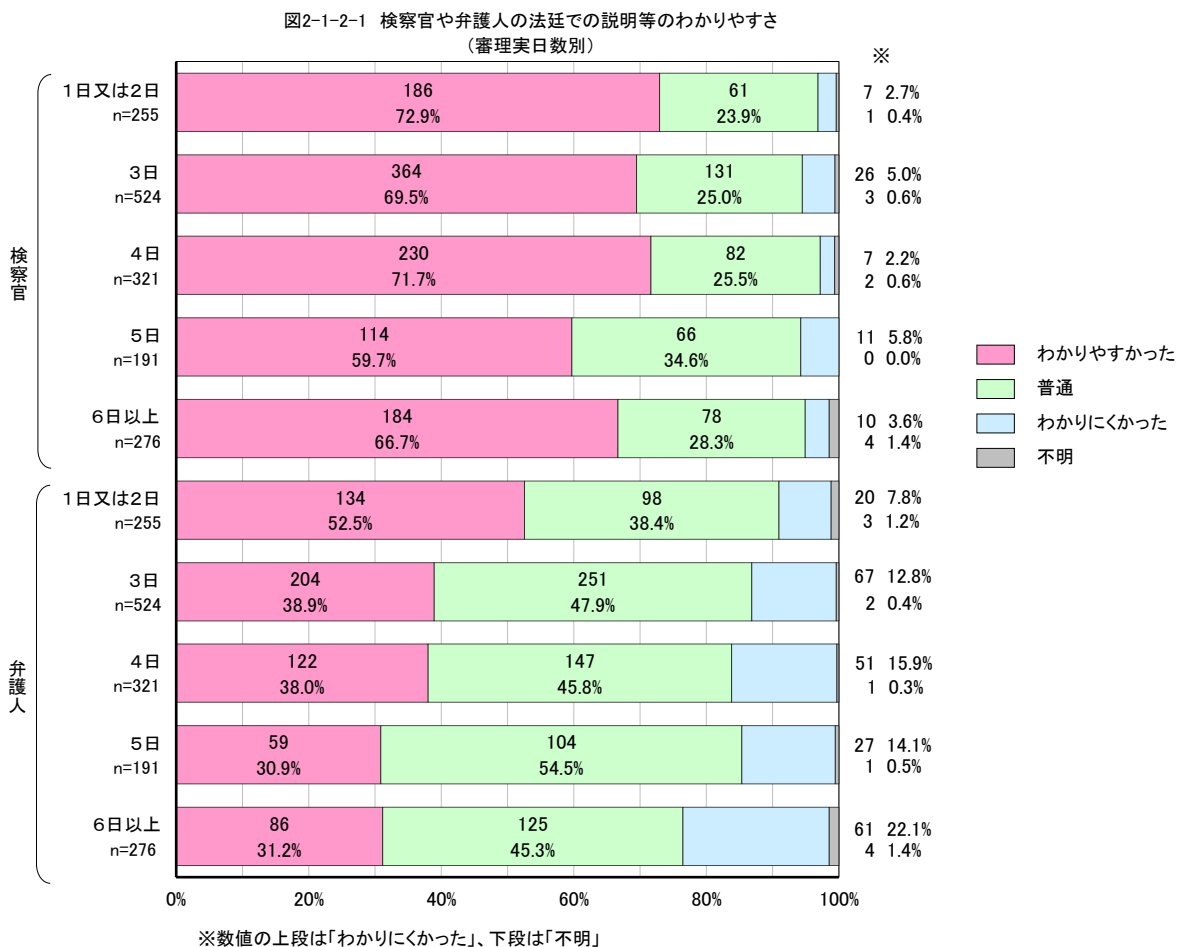
(ii) 検察官や弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ



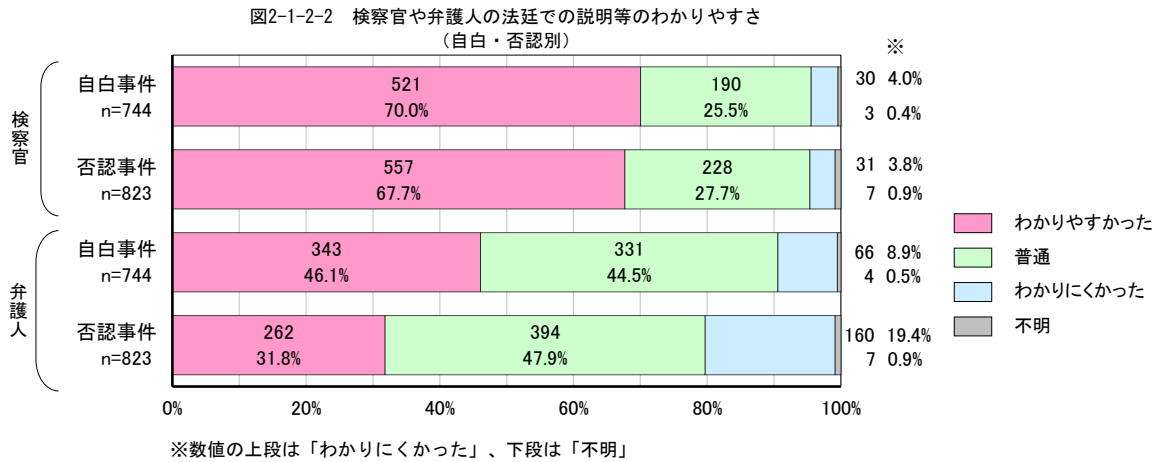
【他のデータとのクロス集計】

『検察官や弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ』を審理実日数別でみたのが、図 2-1-2-1 である。

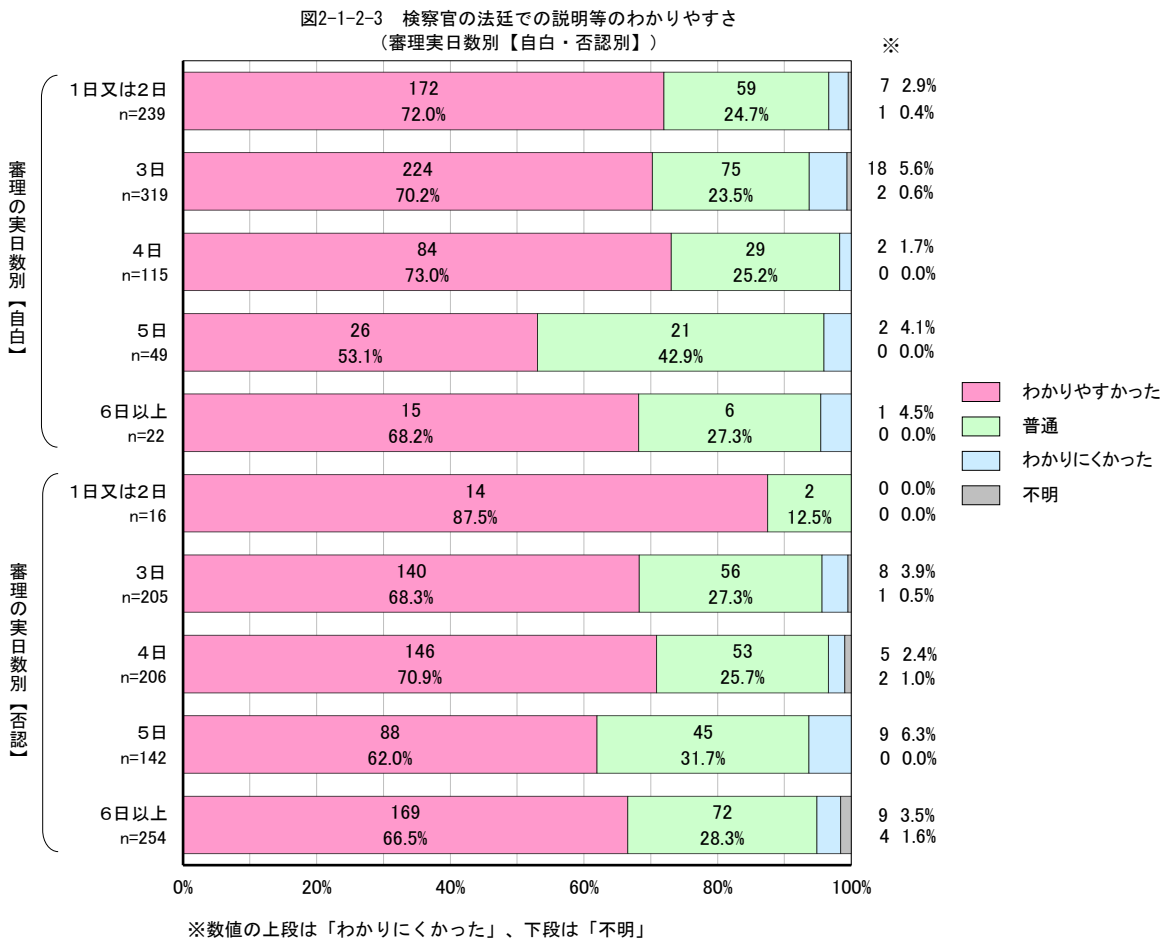
検察官については、「わかりやすかった」と回答した者の割合は、審理実日数が1日又は2日の場合に72.9%と最も高く、5日の場合に59.7%と最も低くなっている。弁護人については、1日又は2日の場合に52.5%と最も高く、審理実日数が長くなるほど「わかりやすかった」と回答した者の割合が低下する傾向にある。



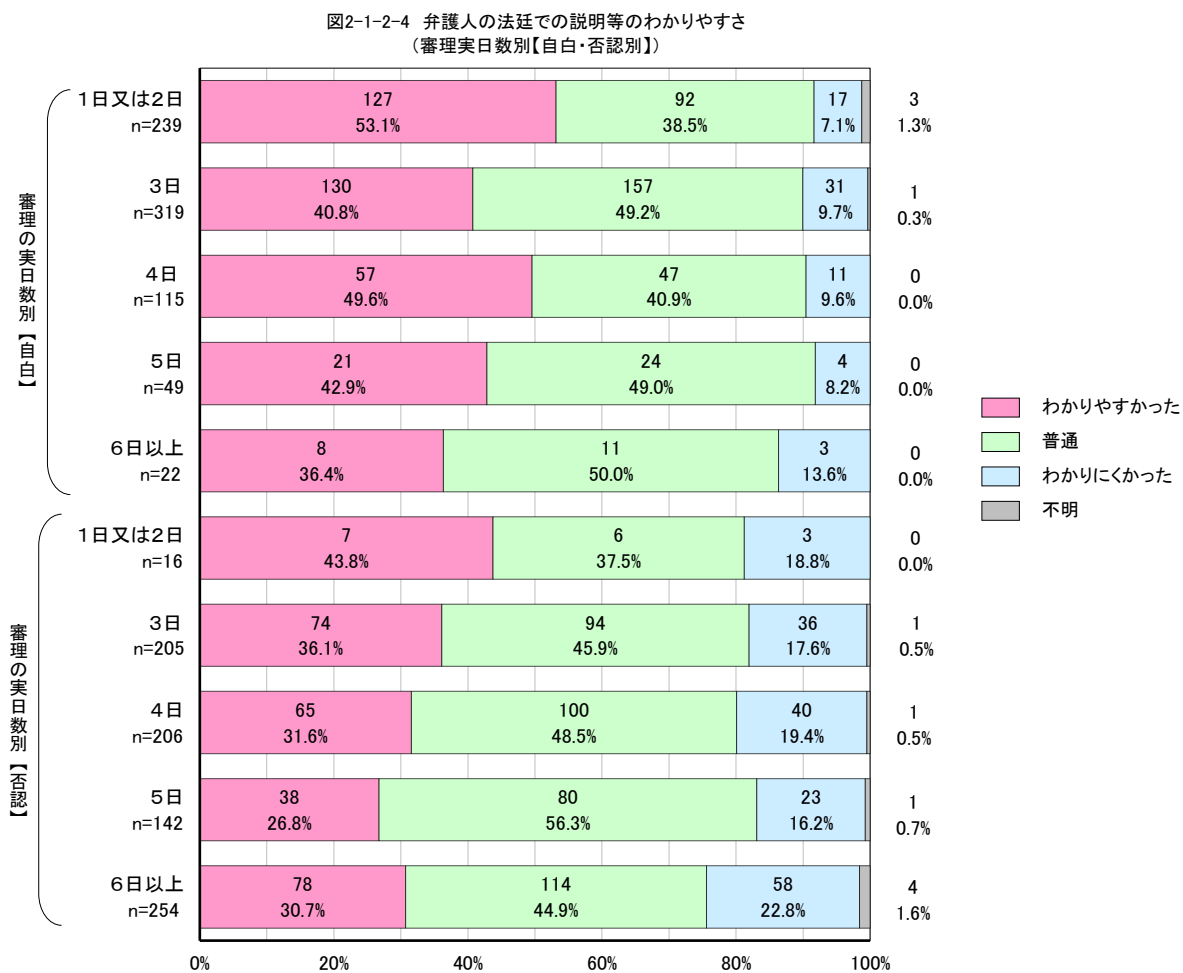
『検察官や弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ』を自白・否認別で区分したのが、図2-1-2-2である。両者とも否認事件よりも自白事件のほうが「わかりやすかった」と回答した者の割合が高い。



『検察官の法廷での説明等のわかりやすさ』について、審理実日数別をさらに自白・否認別で区分したのが、図2-1-2-3である。自白事件において「わかりやすかった」と回答した割合は、審理実日数が4日の場合に73.0%と最も高く、5日の場合に53.1%と最も低くなっている。否認事件においては、審理実日数が1日又は2日の場合に87.5%と最も高く、5日の場合に62.0%と最も低くなっている。



『弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ』について、審理実日数別をさらに自白・否認別で区分したのが、図2-1-2-4である。自白事件において「わかりやすかった」と回答した割合は、審理実日数が1日又は2日の場合に53.1%と最も高く、6日以上の場合に36.4%と最も低くなっている。否認事件においては、審理実日数が1日又は2日の場合に43.8%と最も高く、5日の場合に26.8%と最も低くなっている。



『検察官や弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ』を審理内容のわかりやすさ別でみたのが、図2-1-2-5及び図2-1-2-6である。両者とも審理内容が「わかりやすかった」と回答した層が、他の層よりも検察官・弁護人の説明等が「わかりやすかった」と回答した者の割合が高い。

図2-1-2-5 検察官の法廷での説明等のわかりやすさ
(審理内容のわかりやすさ別)

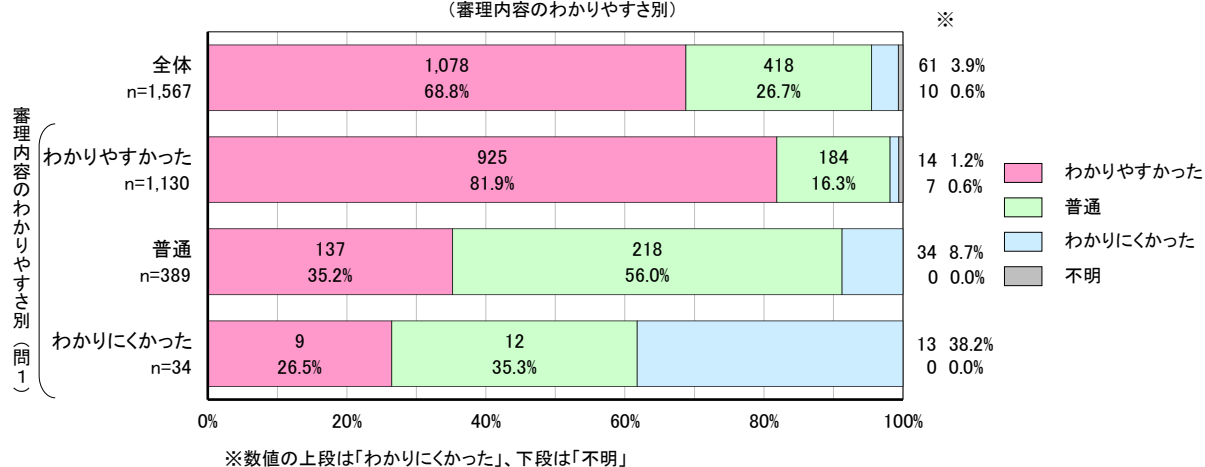
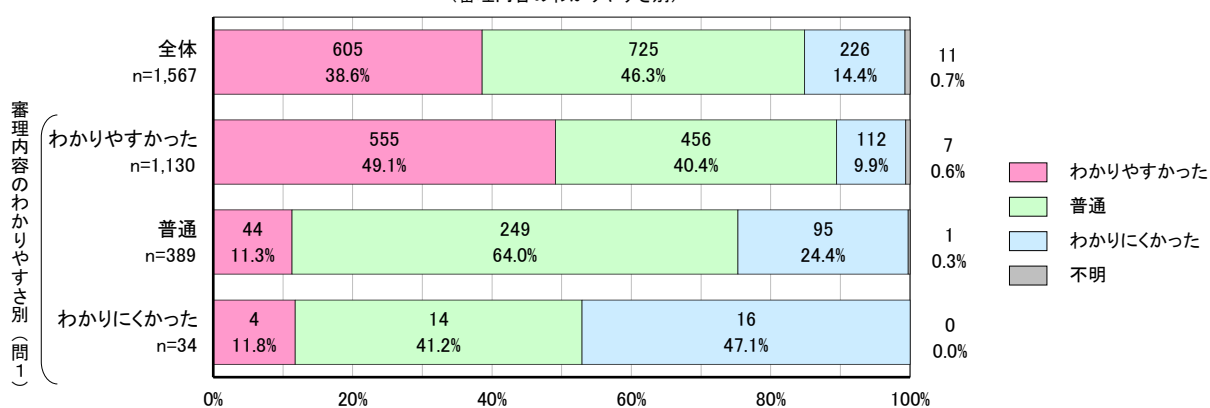
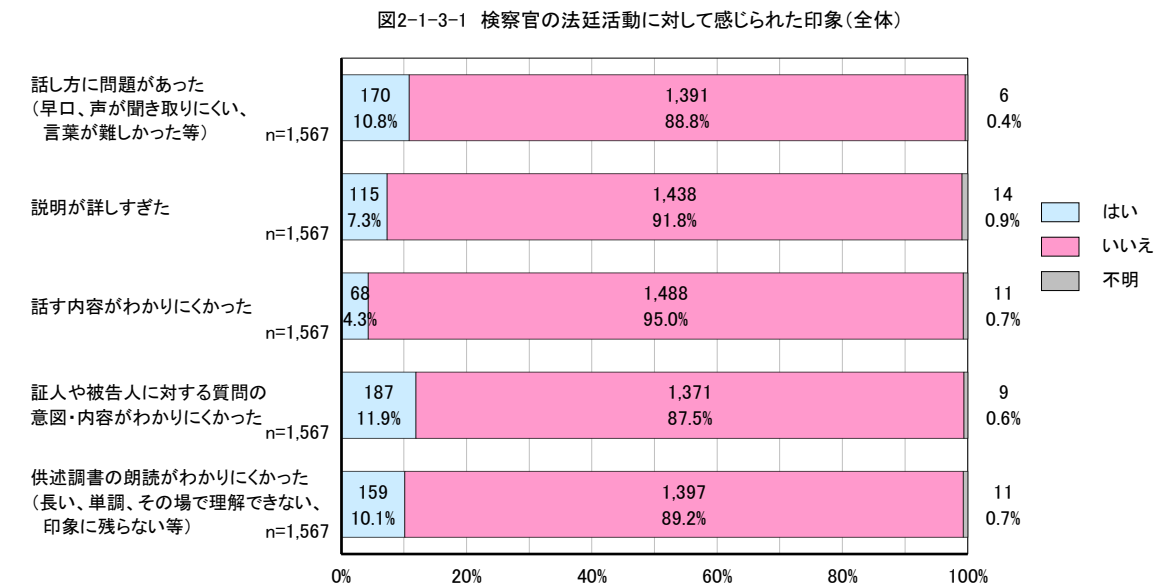


図2-1-2-6 弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ
(審理内容のわかりやすさ別)



(iii) 検察官の法廷活動に対して感じられた印象

問3-1 検察官の法廷活動に対して感じられた印象について、お答えください。



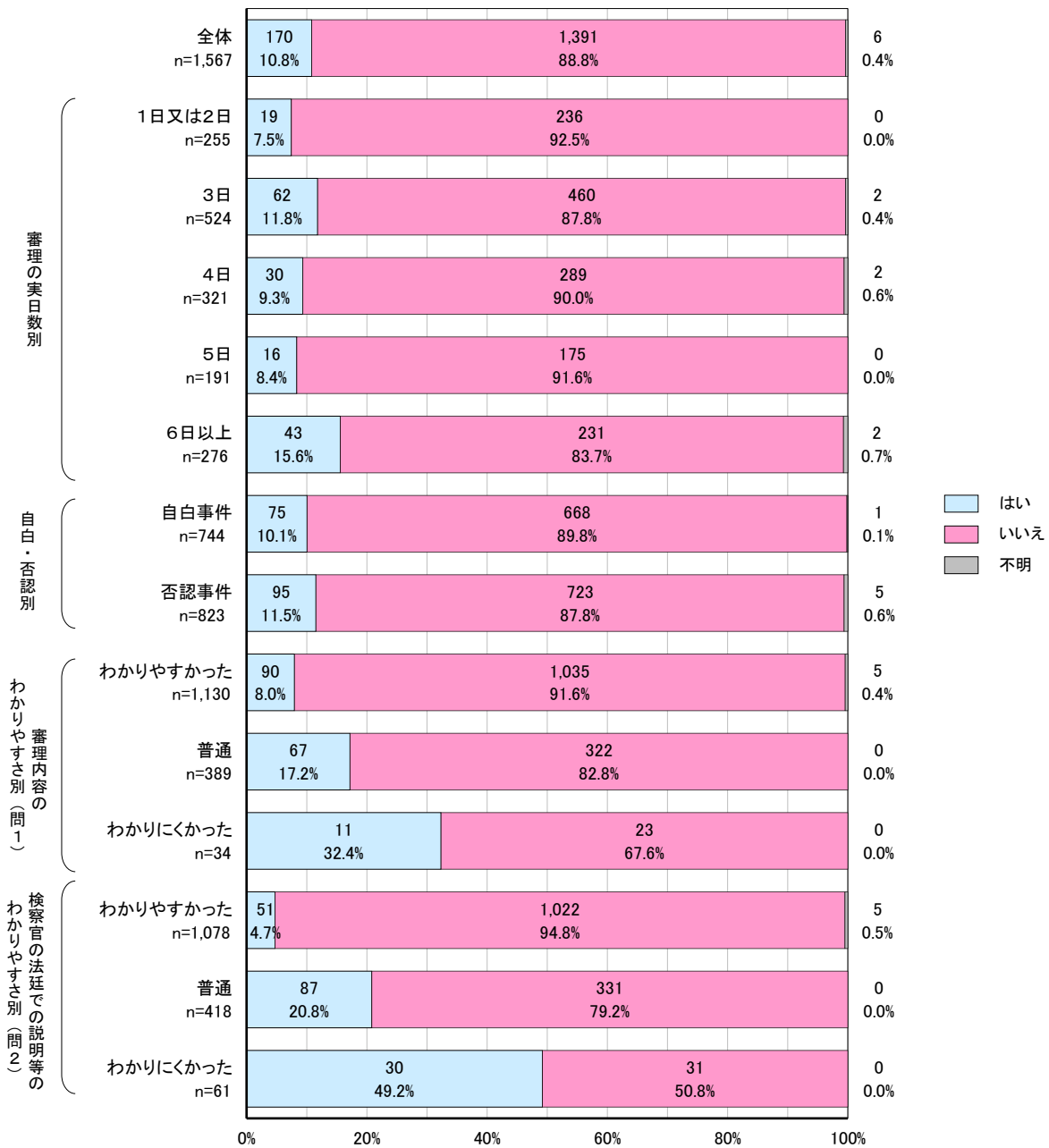
検察官の法廷活動に対して感じられた印象については、「証人や被告人に対する質問の意図・内容がわかりにくかった」(11.9%)と回答した割合が最も高く、以下、「話し方に問題があった」(10.8%)、「供述調書の朗読がわかりにくかった」(10.1%)、「説明が詳しすぎた」(7.3%)、「話す内容がわかりにくかった」(4.3%)の順で低くなっている。

【他のデータとのクロス集計】

上記5つの評価軸を審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別でみたのが、図2-1-3-2から図2-1-3-6である。特に「審理内容のわかりやすさ」及び「検察官の法廷での説明等のわかりやすさ」に関して「わかりにくかった」と回答した層において、上記各印象について「はい」と回答した者の割合が高い。

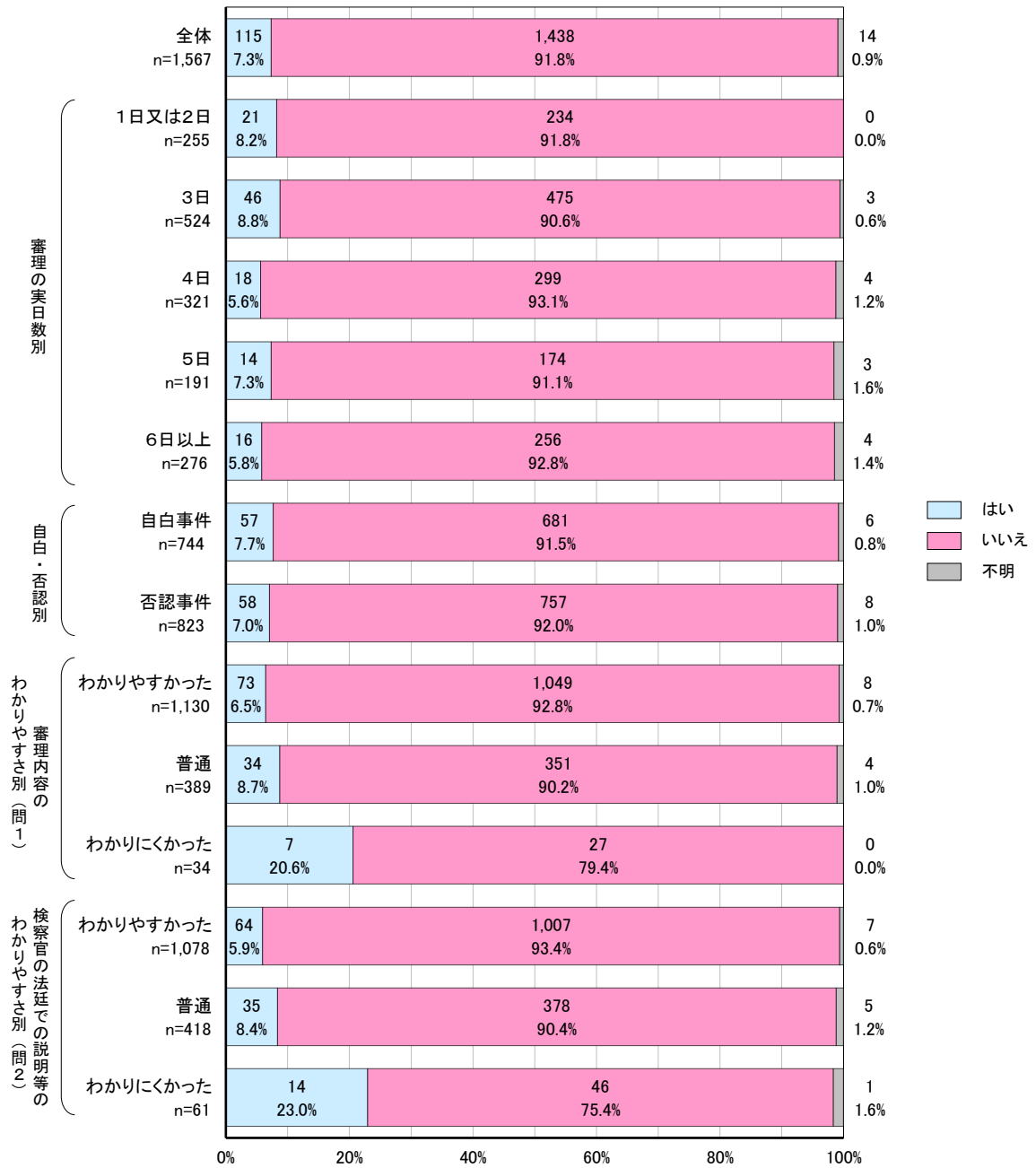
① 検察官の話し方に問題があった（早口、声が聞き取りにくい、言葉が難しかった等）

図2-1-3-2 検察官の話し方に問題があった
 （早口、声が聞き取りにくい、言葉が難しかった等）
 （審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別）



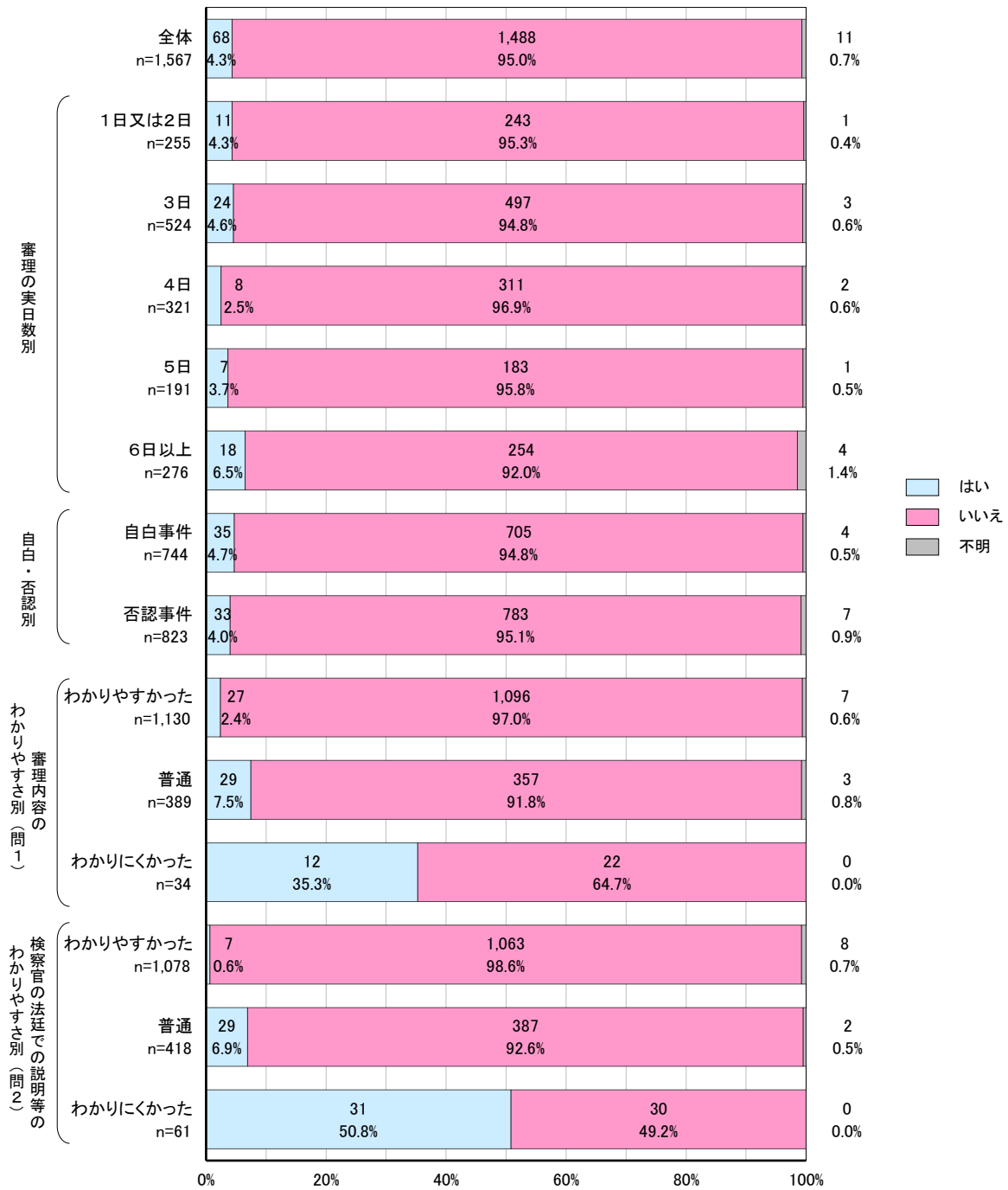
② 検察官の説明が詳しすぎた

図2-1-3-3 検察官の説明が詳しすぎた
 (審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別)



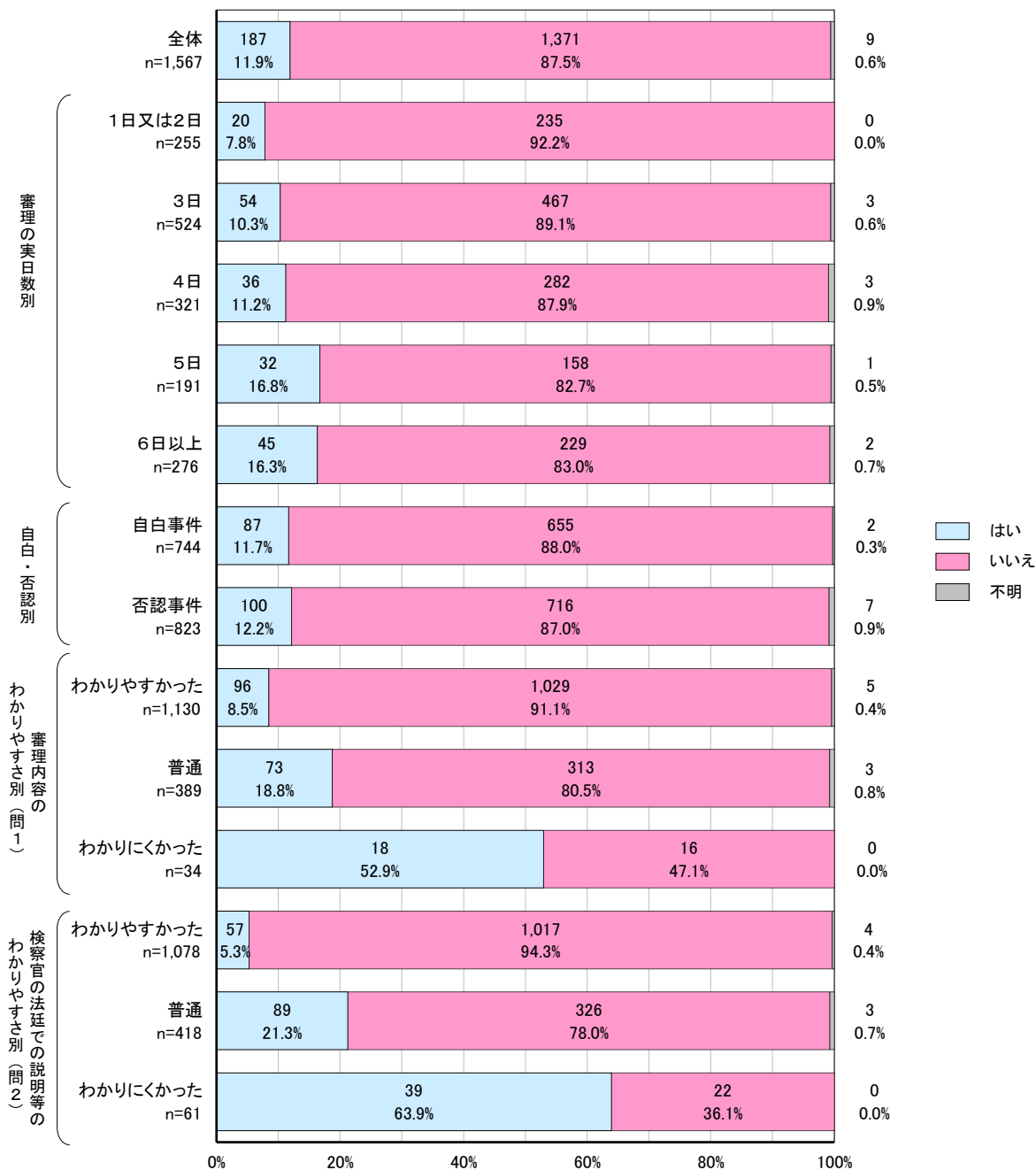
③ 検察官が話す内容がわかりにくかった

図2-1-3-4 検察官が話す内容がわかりにくかった
 (審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別)



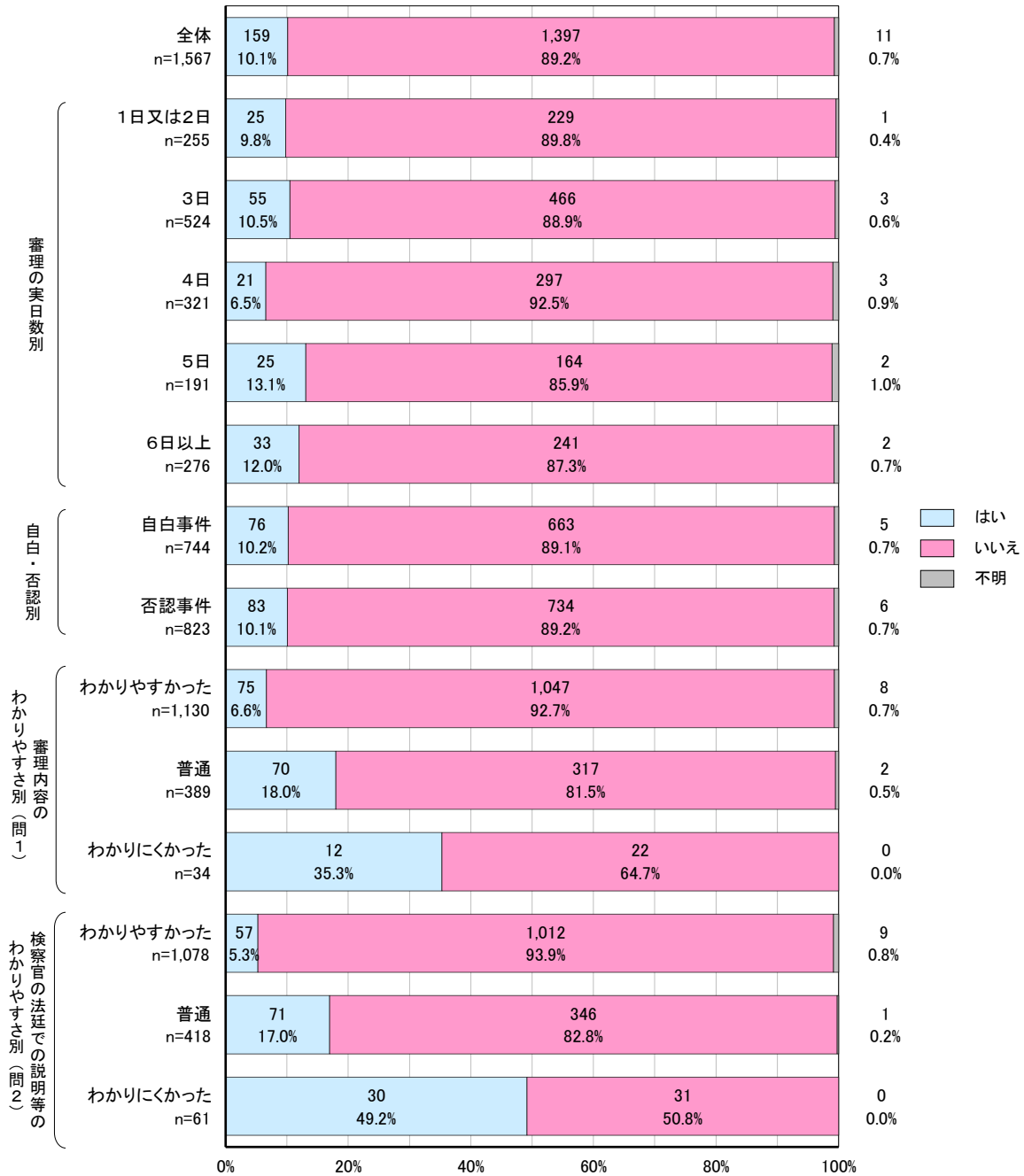
④証人や被告人に対する検察官の質問の意図・内容がわかりにくかった

図2-1-3-5 証人や被告人に対する検察官の質問の意図・内容がわかりにくかった
 (審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別)

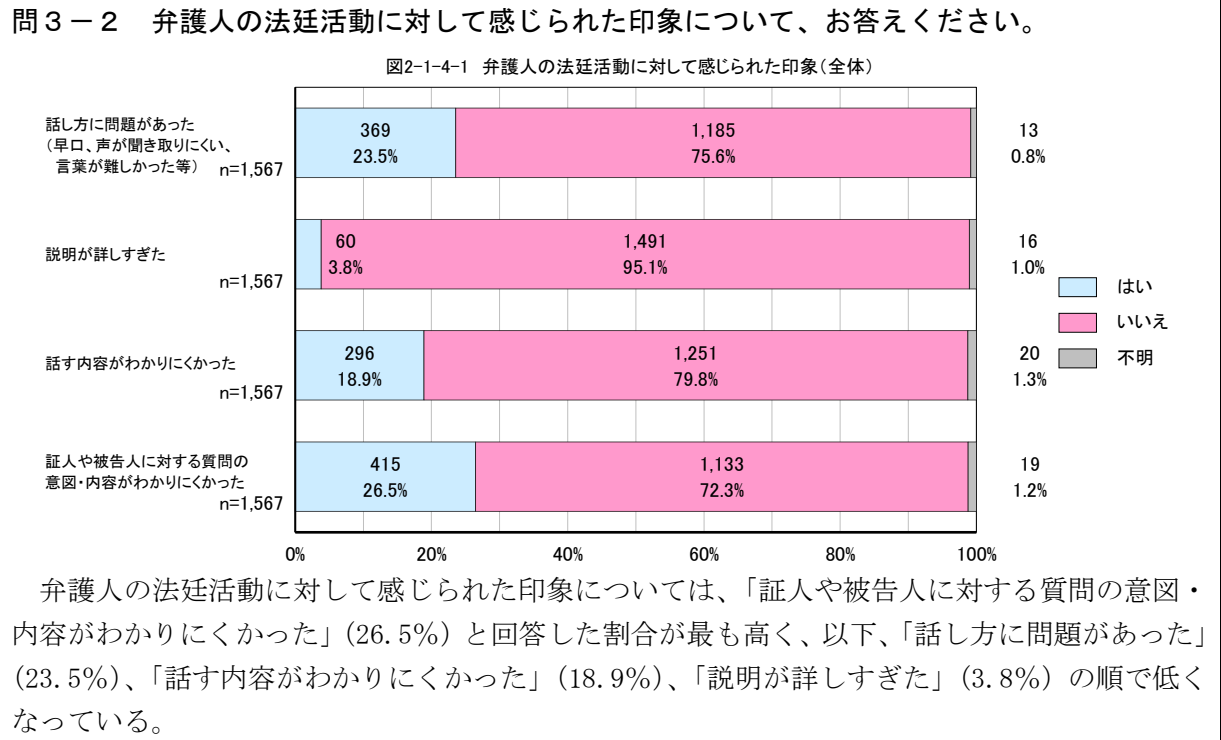


⑤供述調書の朗読がわかりにくかった（長い、単調、その場で理解できない、印象に残らない等）

図2-1-3-6 供述調書の朗読がわかりにくかった
 （長い、単調、その場で理解できない、印象に残らない等）
 （審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別）



(iv) 弁護人の法廷活動に対して感じられた印象

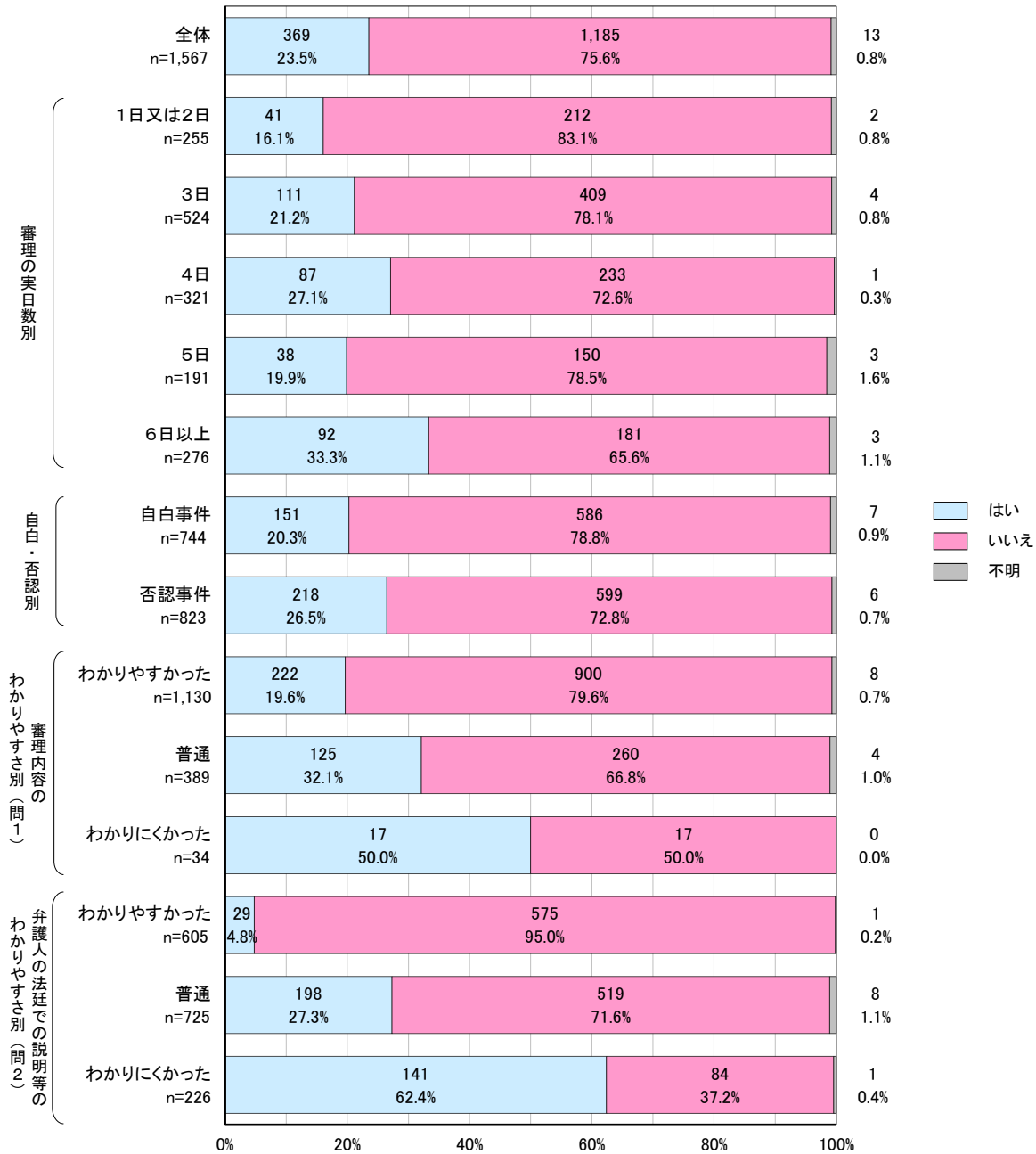


【他のデータとのクロス集計】

上記4つの評価軸を審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別でみたのが、図2-1-4-2から図2-1-4-5である。特に「審理内容のわかりやすさ」及び「弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ」に関して「わかりにくかった」と回答した層において、上記各印象について「はい」と回答した者の割合が高い。

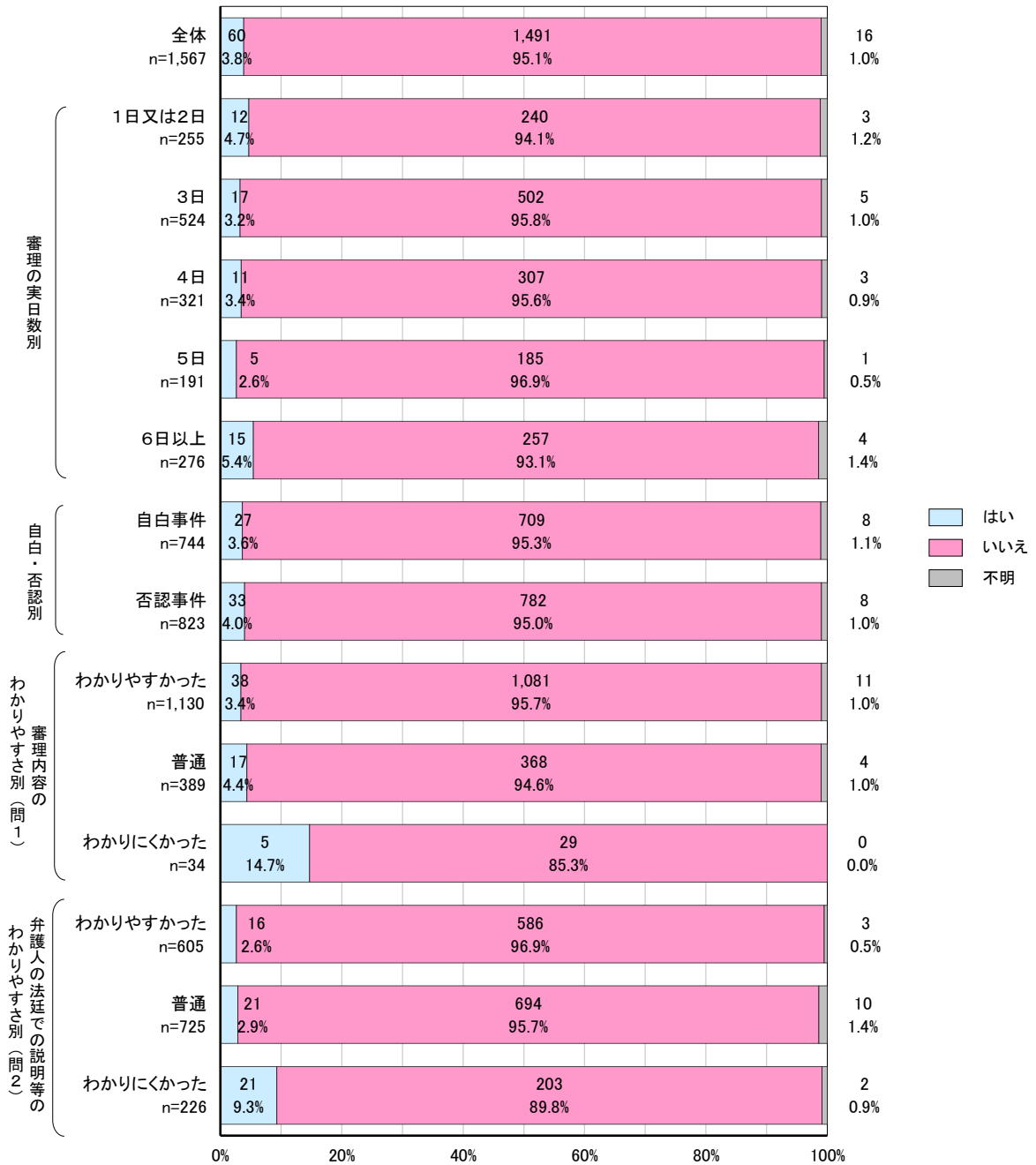
①弁護人の話し方に問題があった（早口、声が聞き取りにくい、言葉が難しかった等）

図2-1-4-2 弁護人の話し方に問題があった
 （早口、声が聞き取りにくい、言葉が難しかった等）
 （審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別）



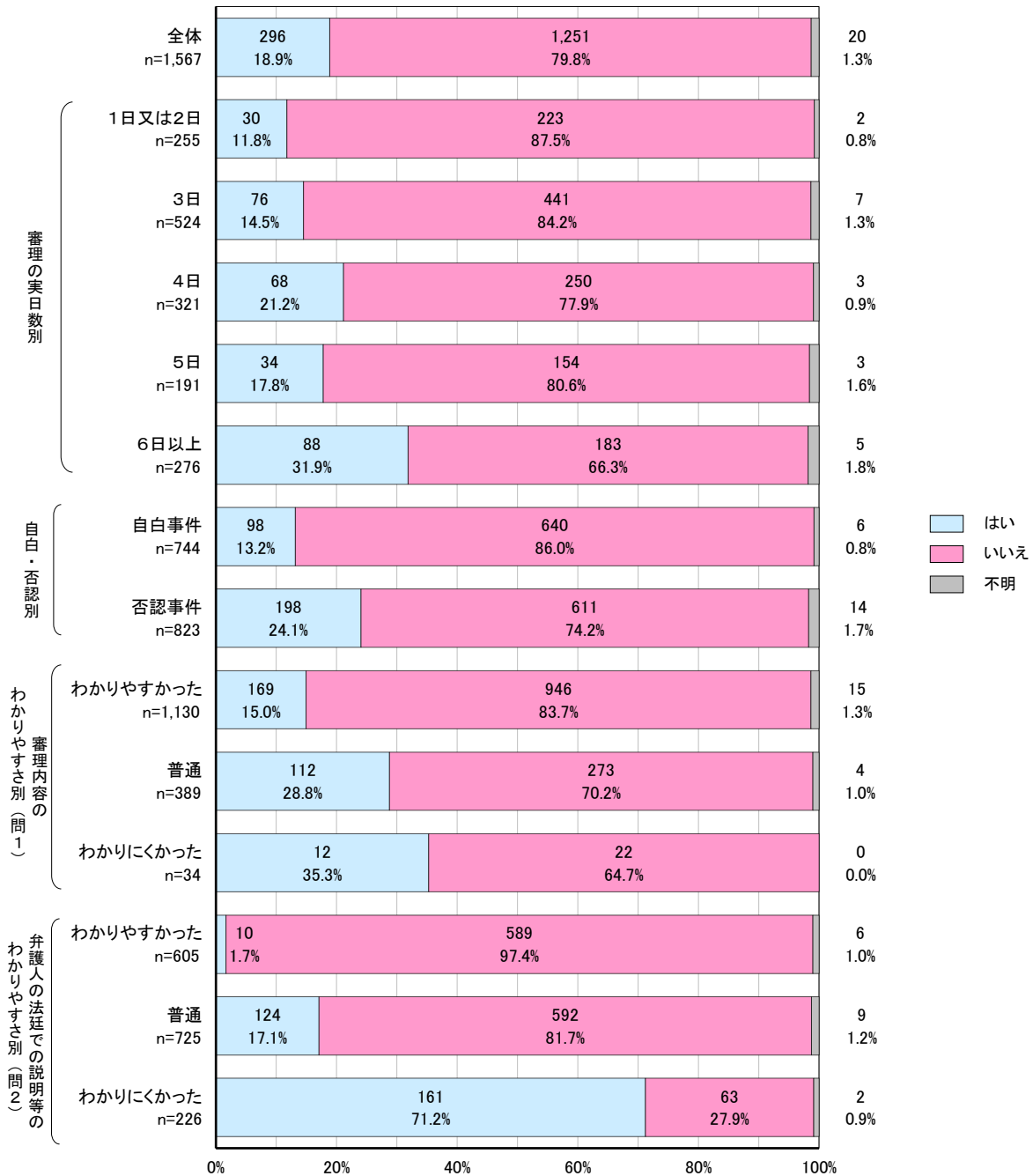
②弁護人の説明が詳しすぎた

図2-1-4-3 弁護人の説明が詳しすぎた
 (審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別)



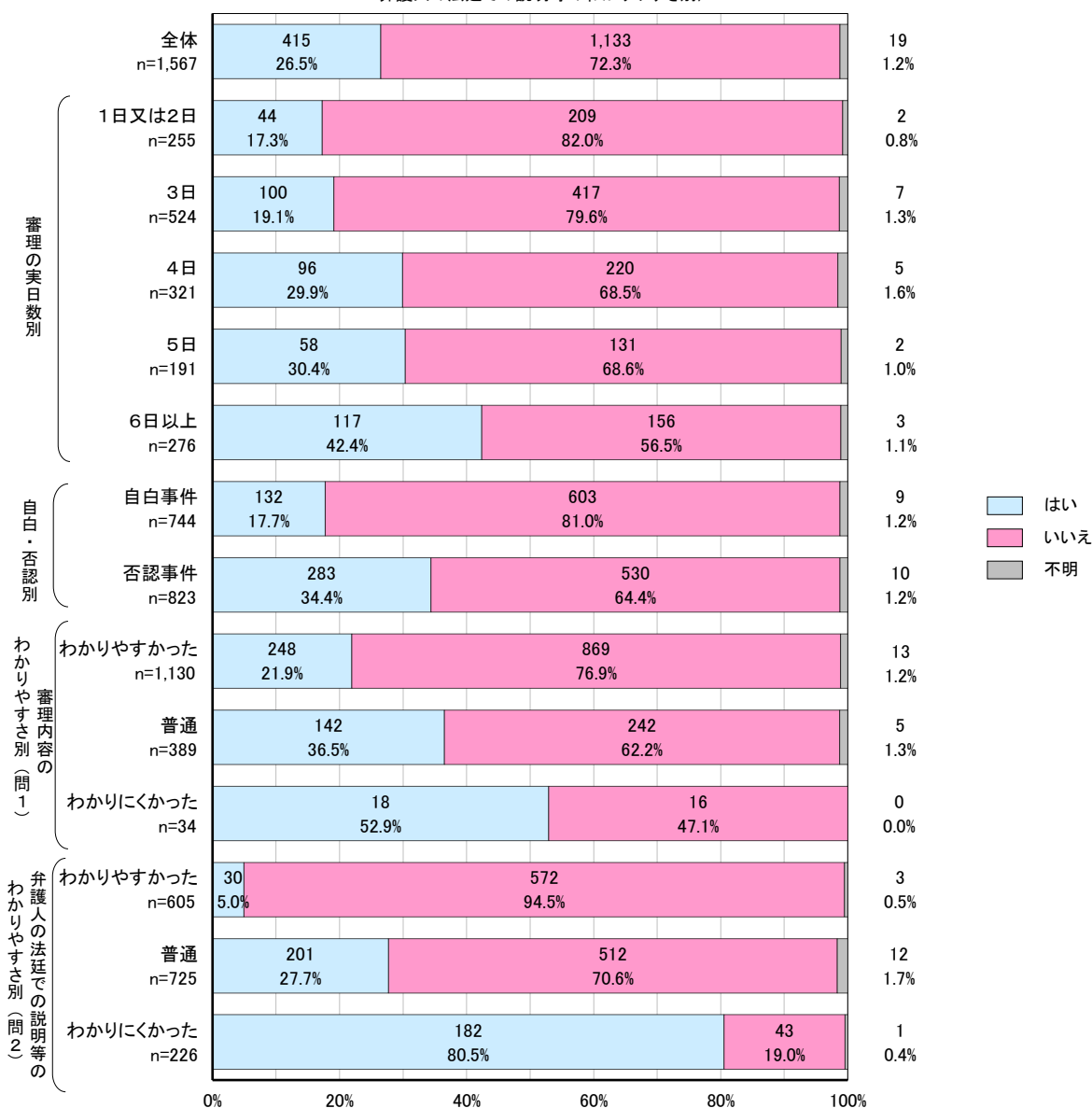
③弁護人が話す内容がわかりにくかった

図2-1-4-4 弁護人が話す内容がわかりにくかった
 (審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
 弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別)



④証人や被告人に対する弁護人の質問の意図・内容がわかりにくかった

図2-1-4-5 証人や被告人に対する弁護人の質問の意図・内容がわかりにくかった
(審理実日数別、自白・否認別、審理内容のわかりやすさ別、
弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別)



(v) 検察官や弁護人の活動に感じられた問題点等 (問3-3)

検察官や弁護人の活動に感じられた問題点等について、気づいた点を自由に記載してもらったところ、全1,567名中、730名から回答があった。

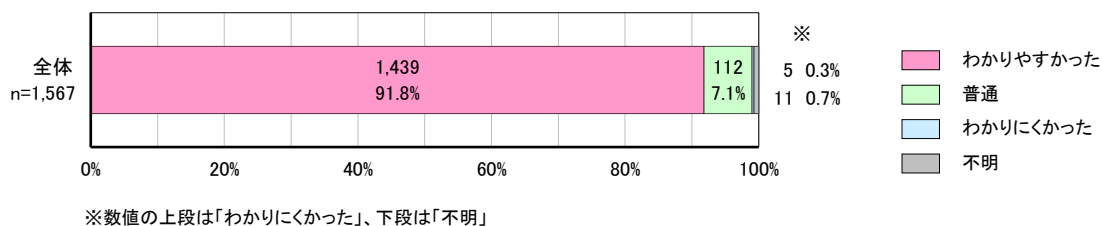
記述内容を資料編の自由記載分類・整理表(195頁以下)記載の項目別に分類したところ、検察官の活動に感じられた問題点の中で最も多かったのは「声が聞き取りにくかった」であり、以下「立証がわかりにくかった」「証人や被告人に対する質問の意図・内容がわかりにくかった」がそれに続いている。弁護人の活動に感じられた問題点の中で最も多かったのは「主張がわかりにくかった」「声が聞き取りにくかった」であり、「証人や被告人に対する質問の意図・内容がわかりにくかった」がそれに続いている。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

(vi) 裁判官の説明のわかりやすさ

問4 裁判官の説明はわかりやすかったですか。

図2-1-6 裁判官の説明のわかりやすさ(全体)



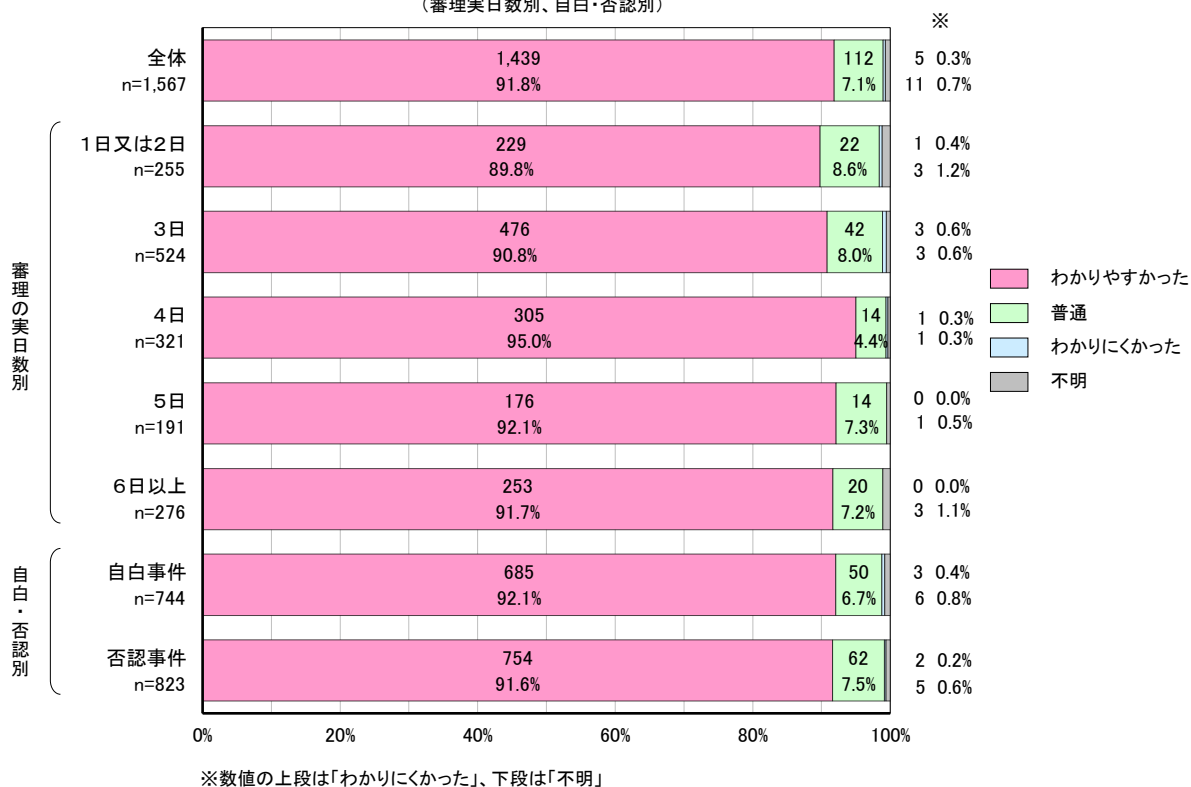
裁判官の説明について「わかりやすかった」とする回答は 91.8%であり（「普通」とあわせて 98.9%）、「わかりにくかった」とする回答は 0.3%である。

【他のデータとのクロス集計】

『裁判官の説明のわかりやすさ』を審理実日数別、自白・否認別でみたのが、図 2-1-6-1 である。

「わかりやすかった」と回答した割合については、審理実日数の長短や自白・否認の差による大きな違いはみてとれない。

図2-1-6-1 裁判官の説明のわかりやすさ
(審理実日数別、自白・否認別)



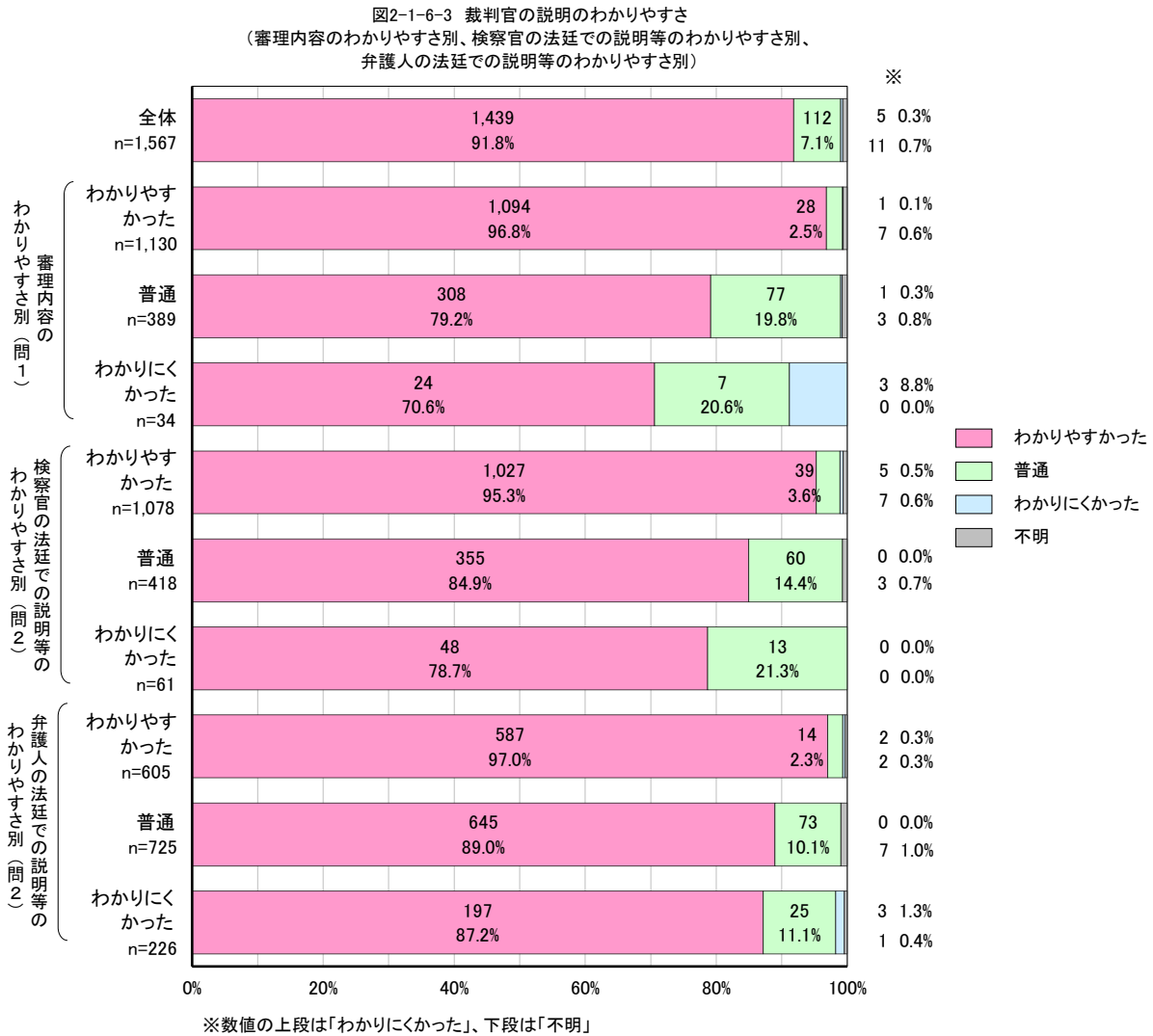
『裁判官の説明のわかりやすさ』について、審理実日数別をさらに自白・否認別で区分したのが、図2-1-6-2である。

自白事件・否認事件とも「わかりやすかった」とする回答の割合が、いずれの区分でも85%を上回っており、審理実日数の長短による大きな違いはみとれない。



『裁判官の説明のわかりやすさ』について、審理内容のわかりやすさ別、検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別、弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別で区分したのが、図2-1-6-3である。

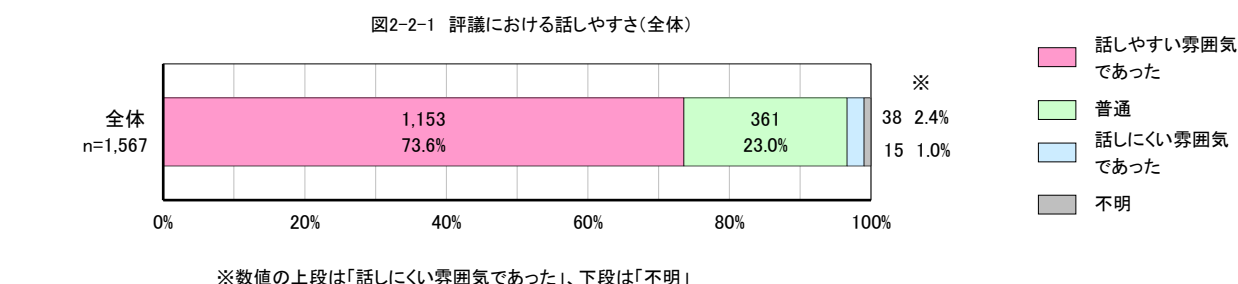
いずれの区分でも「わかりやすかった」と回答した層が、他の層よりも裁判官の説明が「わかりやすかった」と回答した者の割合が高い。



(2) 評議について

(i) 評議における話しやすさ

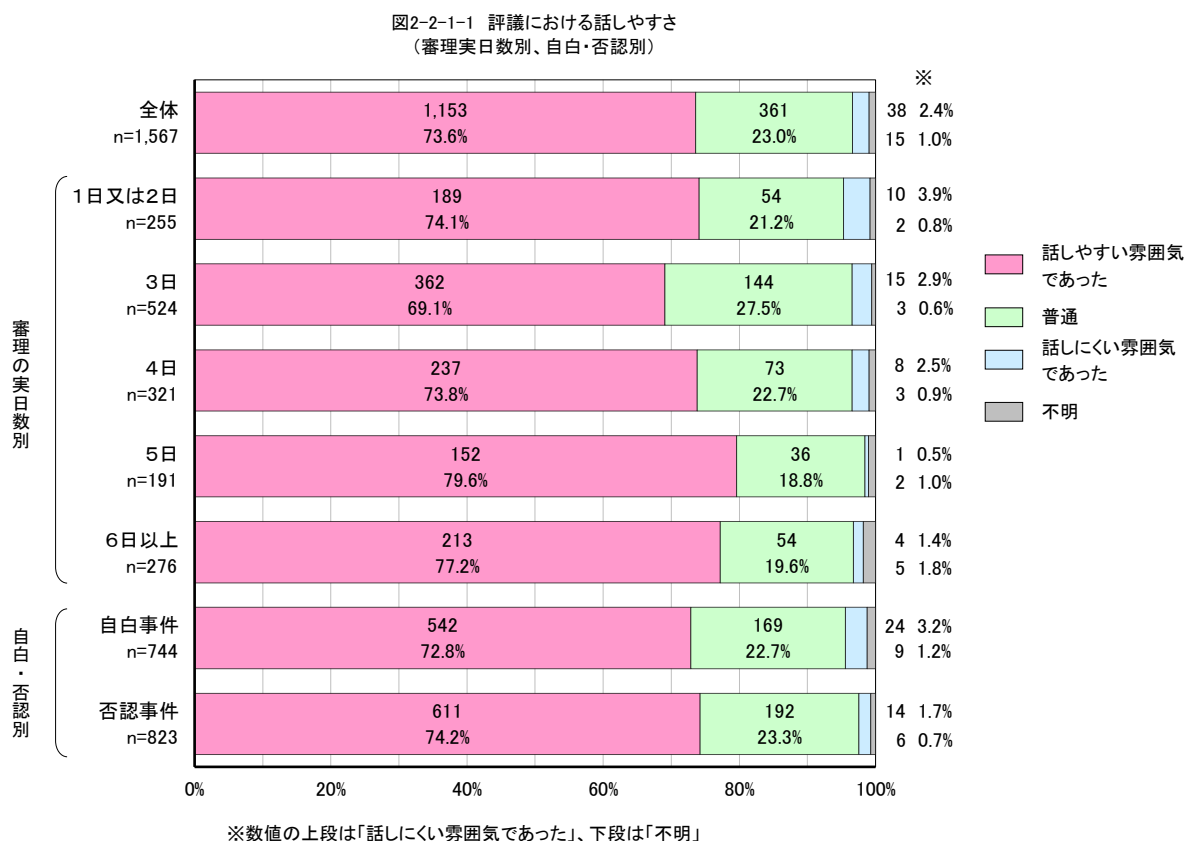
問5 評議は話しやすい雰囲気でしたか。



評議について「話しやすい雰囲気であった」との回答が73.6%（「普通」とあわせて96.6%）であるのに対し、「話しにくい雰囲気であった」との回答は2.4%である。

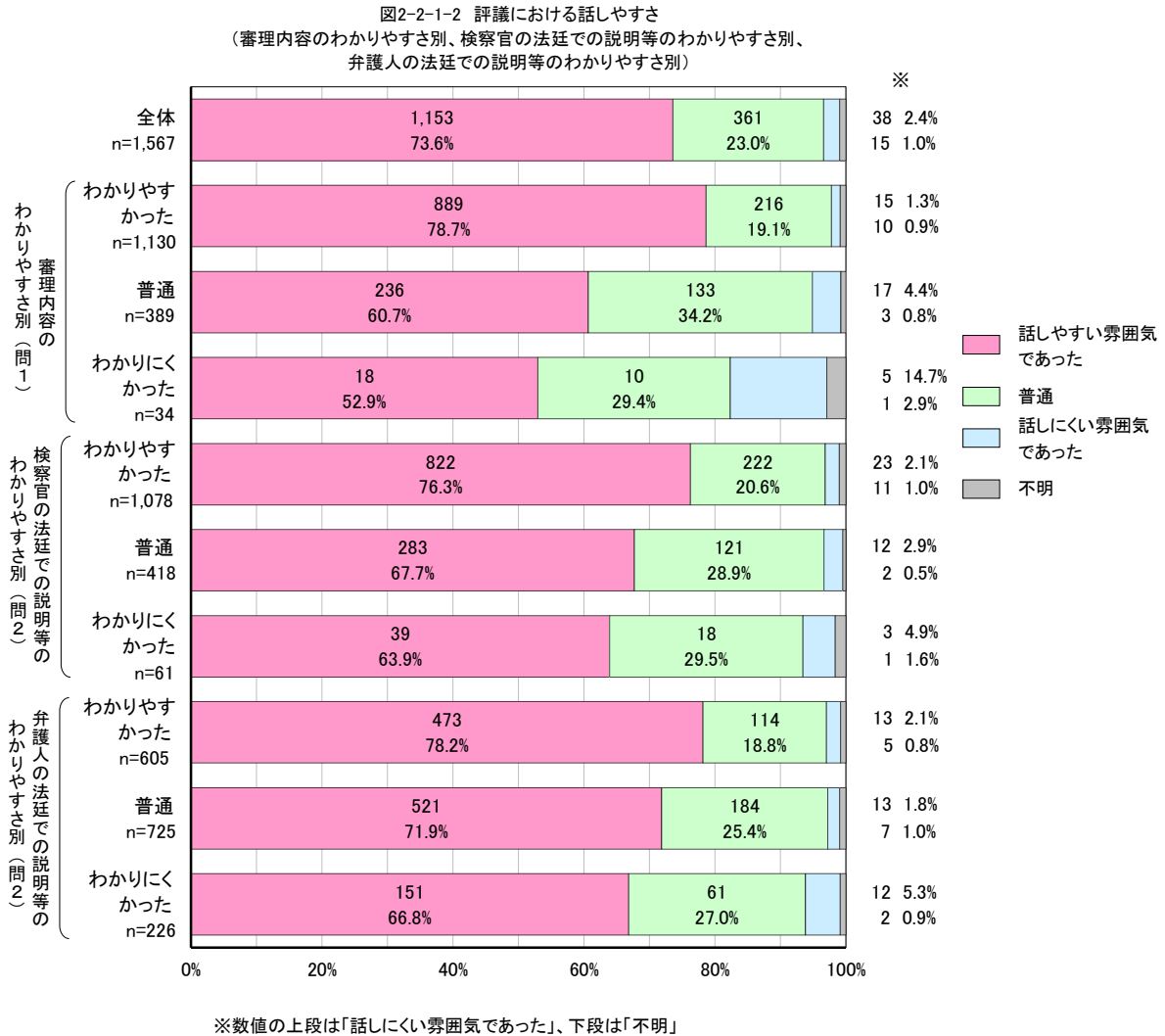
【他のデータとのクロス集計】

『評議における話しやすさ』を審理実日数別、自白・否認別でみたのが、図2-2-1-1である。審理実日数別、自白・否認別いずれも各回答の割合に大きな差はみられない。



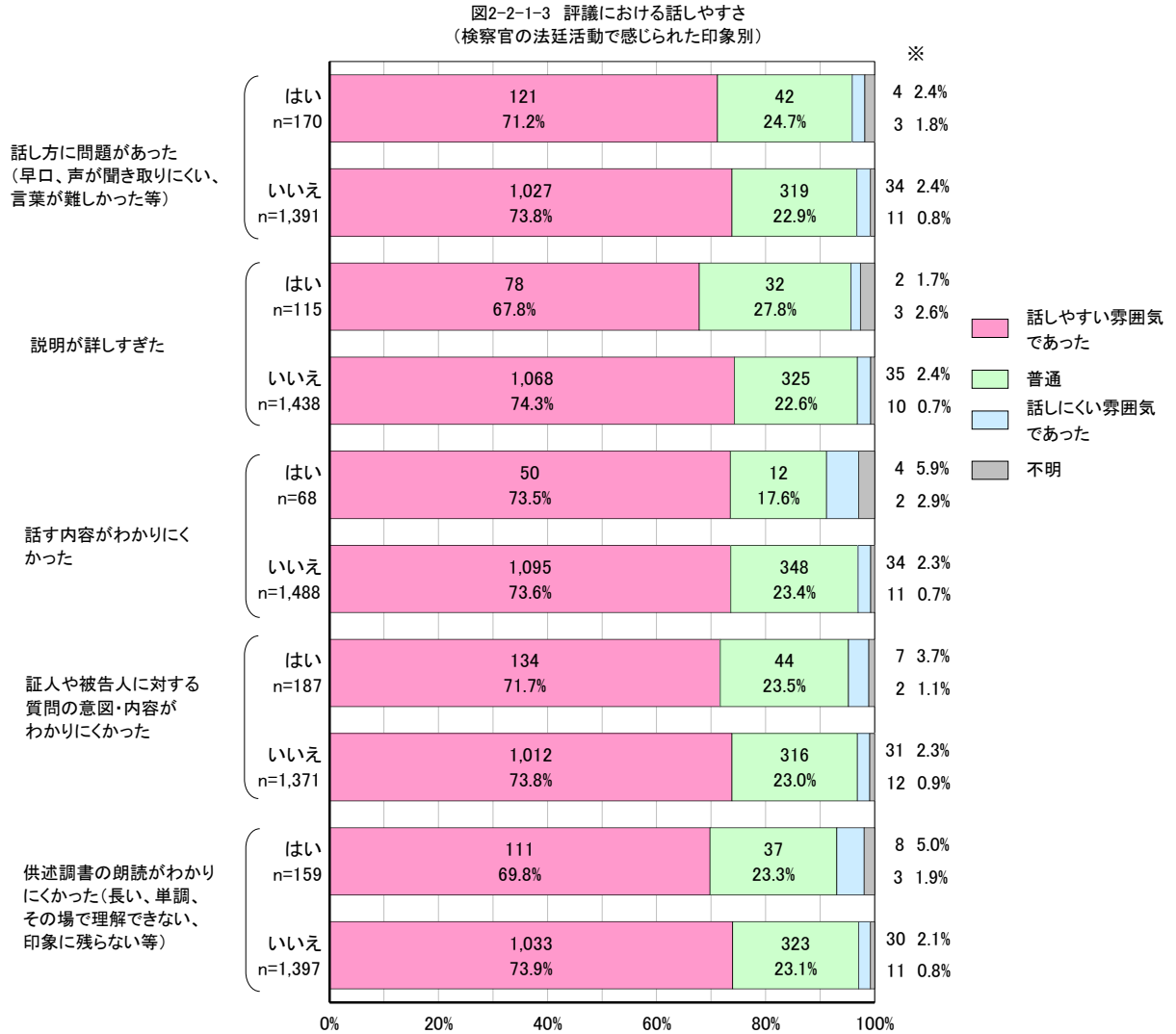
『評議における話しやすさ』を審理内容のわかりやすさ別、検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別、弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別でみたのが、図 2-2-1-2 である。

いずれの区分でも「わかりやすかった」と答えた層で、「話しやすい雰囲気であった」とする回答の割合が高くなっている。



『評議における話しやすさ』を検察官の法廷活動に対して感じられた印象別でみたのが、図2-2-1-3である。

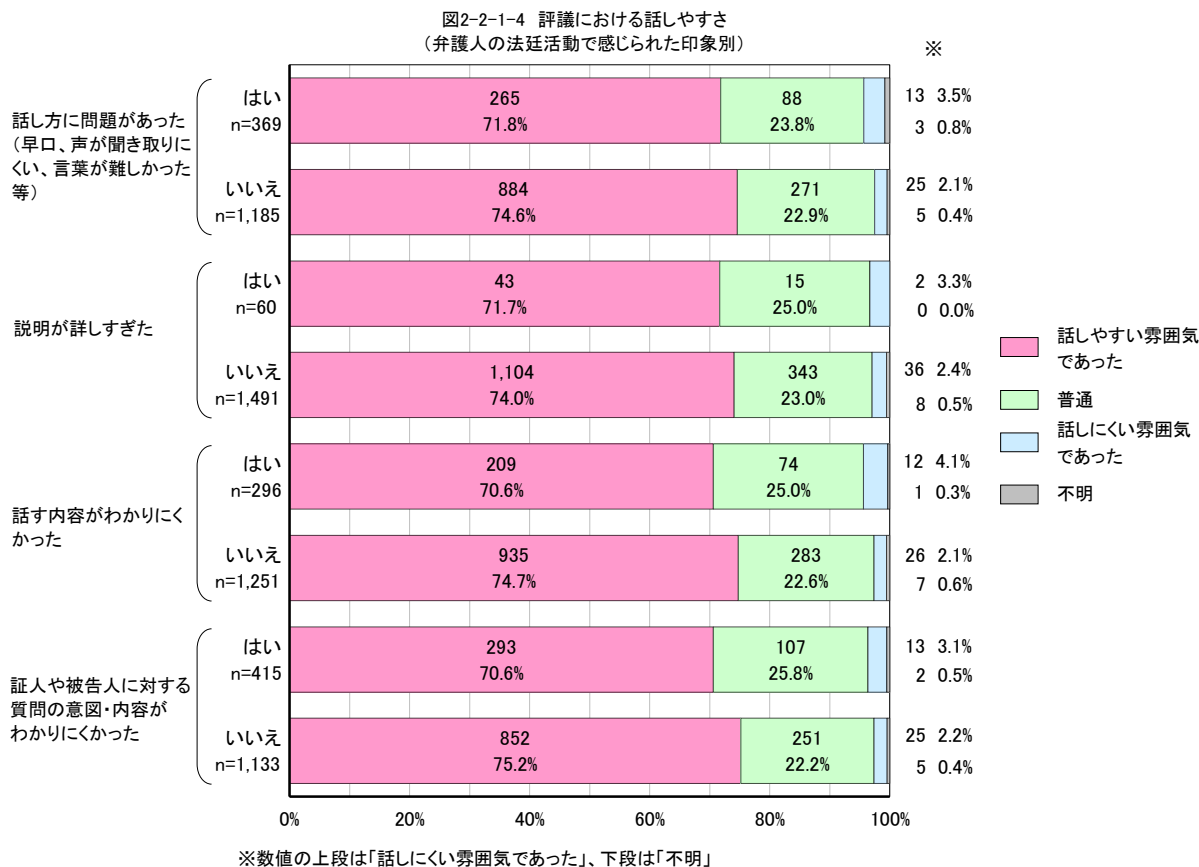
いずれの区分でも「話しやすい雰囲気であった」とする回答の割合については、検察官の法廷活動に対して感じられた印象による大きな違いはみてとれない。



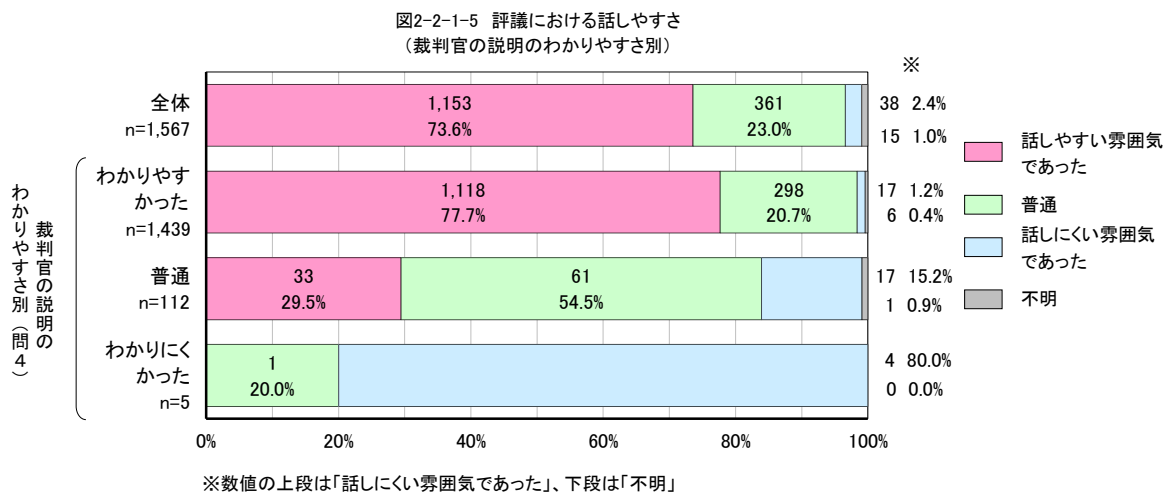
※数値の上段は「話しにくい雰囲気であった」、下段は「不明」

『評議における話しやすさ』を弁護人の法廷活動に対して感じられた印象別でみたのが、図2-2-1-4である。

いずれの区分でも「話しやすい雰囲気であった」とする回答の割合については、弁護人の法廷活動に対して感じられた印象による大きな違いはみてとれない。



『評議における話しやすさ』を裁判官の説明のわかりやすさ別でみたのが、図2-2-1-5である。裁判官の説明が「わかりやすかった」と回答した層で、「話しやすい雰囲気であった」とする回答の割合が顕著に高くなっている。



(ii) 評議の進め方(裁判官の進行、裁判官の説明、評議の時間、休憩の取り方など)についての意見や感想など(問6)

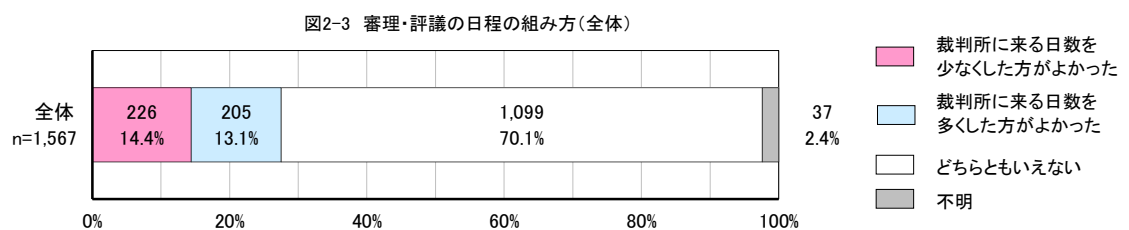
評議の進め方について、気づいた点を自由に記載してもらったところ、全1,567名中、937名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表(197頁以下)記載の項目別に分類したところ、「進行が適切だった」などとするものが最も多く、「説明がわかりやすかった」「応対(接遇)が適切だった」などがそれに続いている。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

(3) 審理・評議の日程の組み方について

問7 審理・評議の日程の組み方をどう思いましたか。

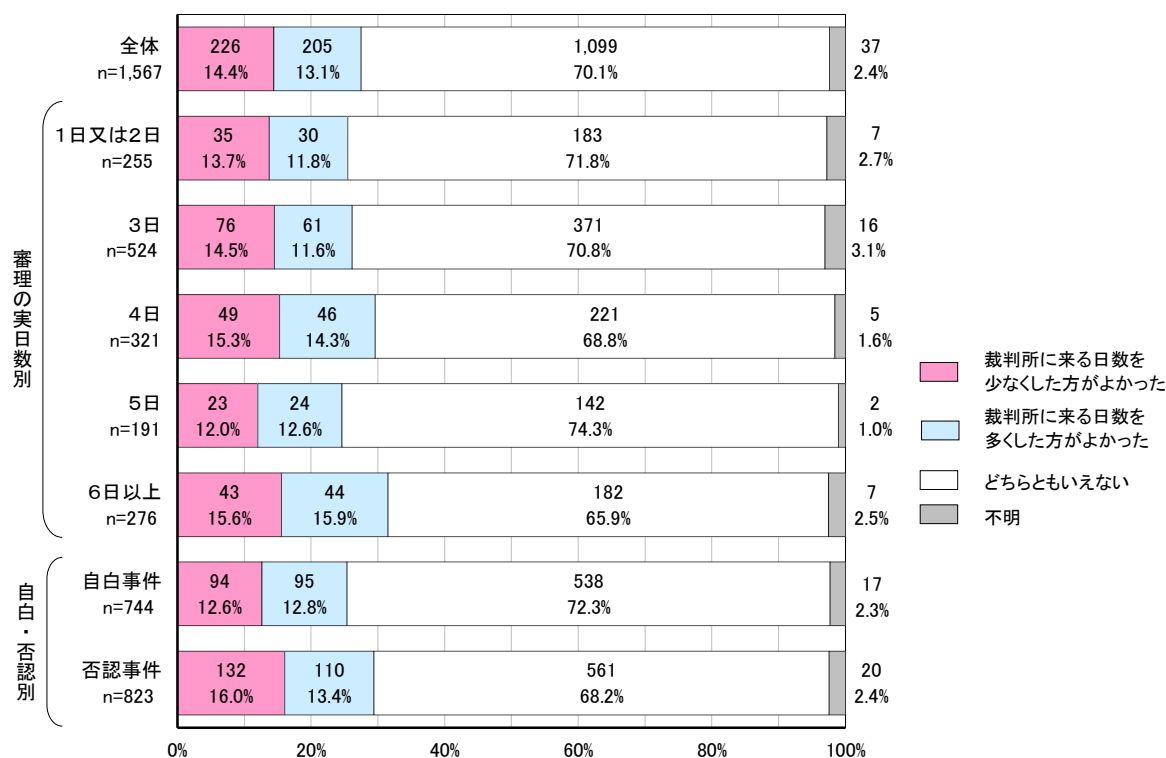


審理・評議の日程の組み方について、「どちらともいえない」との回答が最も多く、70.1%となっている。「どちらかといえば、裁判所に来る日数を少なくした方がよかった」との回答が14.4%であったのに対し、「どちらかといえば、裁判所に来る日数を多くした方がよかった」との回答は13.1%であった。

【他のデータとのクロス集計】

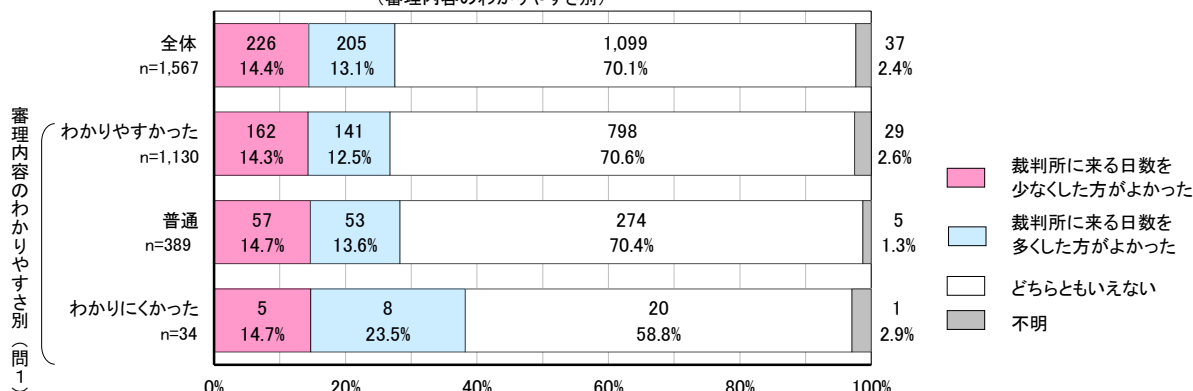
『審理・評議の日程の組み方』を審理実日数別、自白・否認別でみたのが、図2-3-1である。審理実日数別、自白・否認別にかかわらず、「どちらともいえない」とする回答が最も多い。審理実日数が4日までの場合、「裁判所に来る日数を少なくした方がよかった」とする回答が「裁判所に来る日数を多くした方がよかった」とする回答を多少上回っている。

図2-3-1 審理・評議の日程の組み方
(審理実日数別、自白・否認別)



『審理・評議の日程の組み方』を審理内容のわかりやすさ別でみたのが、図2-3-2である。審理内容のわかりやすさにかかわらず、「どちらともいえない」とする回答が最も多いものの、審理内容が「わかりやすかった」「普通」と回答した層で「裁判所に来る日数を少なくした方がよかった」とする回答が多いのに対し、「わかりにくかった」と回答した層では「裁判所に来る日数を多くした方がよかった」とする回答が多い。

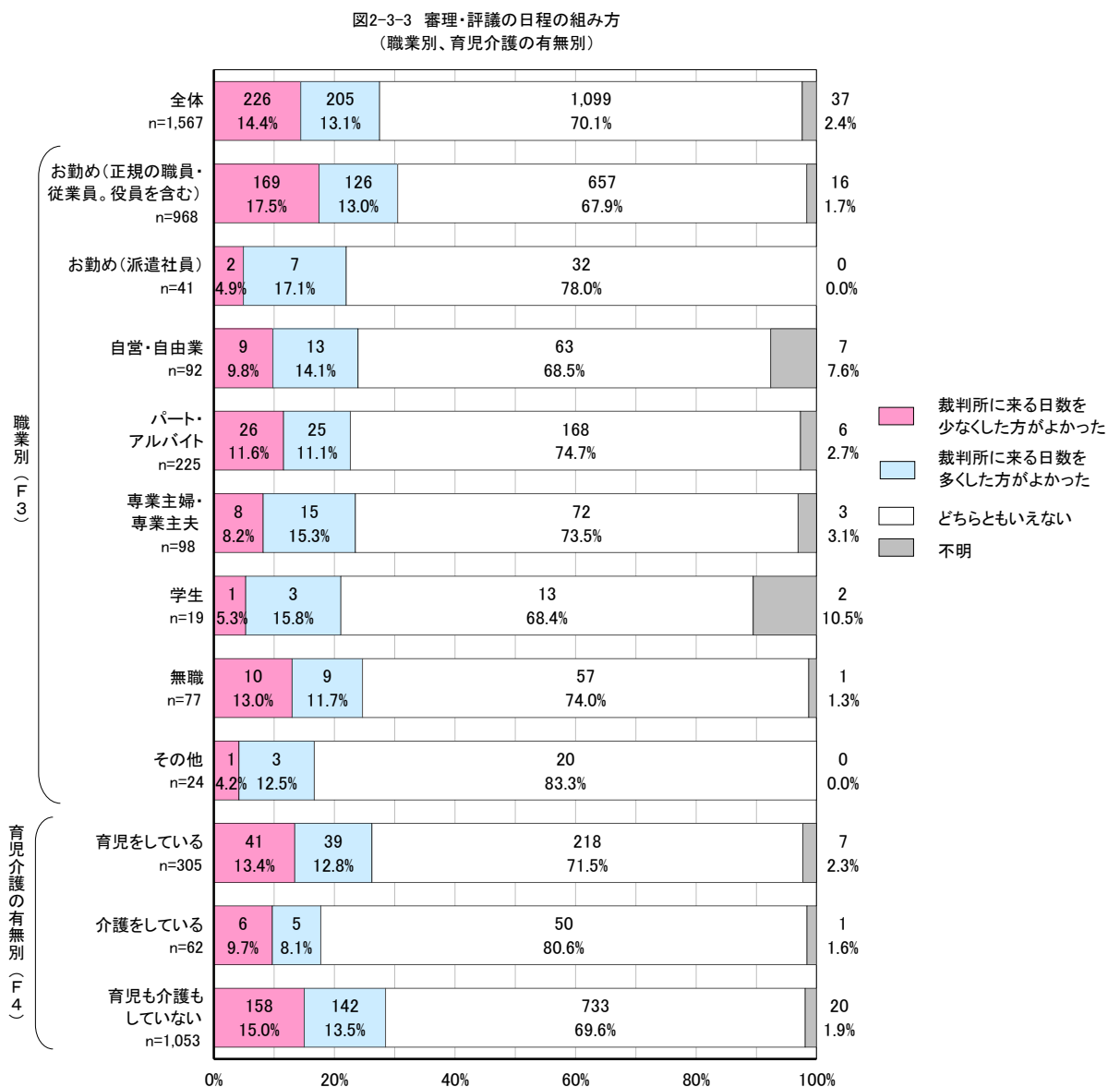
図2-3-2 審理・評議の日程の組み方
(審理内容のわかりやすさ別)



『審理・評議の日程の組み方』を職業別、育児介護の有無別でみたのが、図2-3-3である。

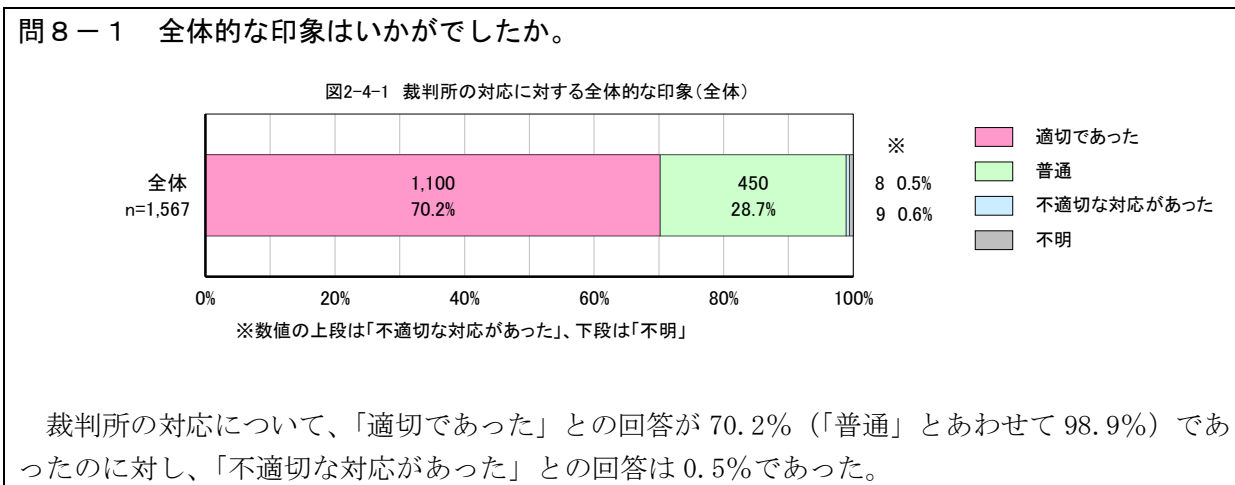
職業別でみると、職業にかかわらず、どの層についても「どちらともいえない」とする回答が最も多い。「裁判所に来る日数を少なくした方がよかった」との回答は、お勤め（正規の職員・従業員。役員を含む）の層が17.5%と最も高く、以下、無職の層（13.0%）、パート・アルバイトの層（11.6%）、自営・自由業の層（9.8%）、専業主婦・専業主夫の層（8.2%）、学生の層（5.3%）、お勤め（派遣社員）の層（4.9%）の順で低くなっている。「裁判所に来る日数を多くした方がよかった」との回答は、お勤め（派遣社員）の層が17.1%と最も高く、以下、学生の層（15.8%）、専業主婦・専業主夫の層（15.3%）、自営・自由業の層（14.1%）、お勤め（正規の職員・従業員。役員を含む）の層（13.0%）、無職の層（11.7%）、パート・アルバイトの層（11.1%）の順で低くなっている。

育児介護の有無別にみると、育児介護の有無にかかわらず、どの層についても「どちらともいえない」とする回答が最も多いものの、「裁判所に来る日数を少なくした方がよかった」とする回答が「裁判所に来る日数を多くした方がよかった」とする回答を多少上回っている。



(4) 裁判所の対応(裁判所からの情報の提供、裁判所職員の対応、裁判所の設備など)について

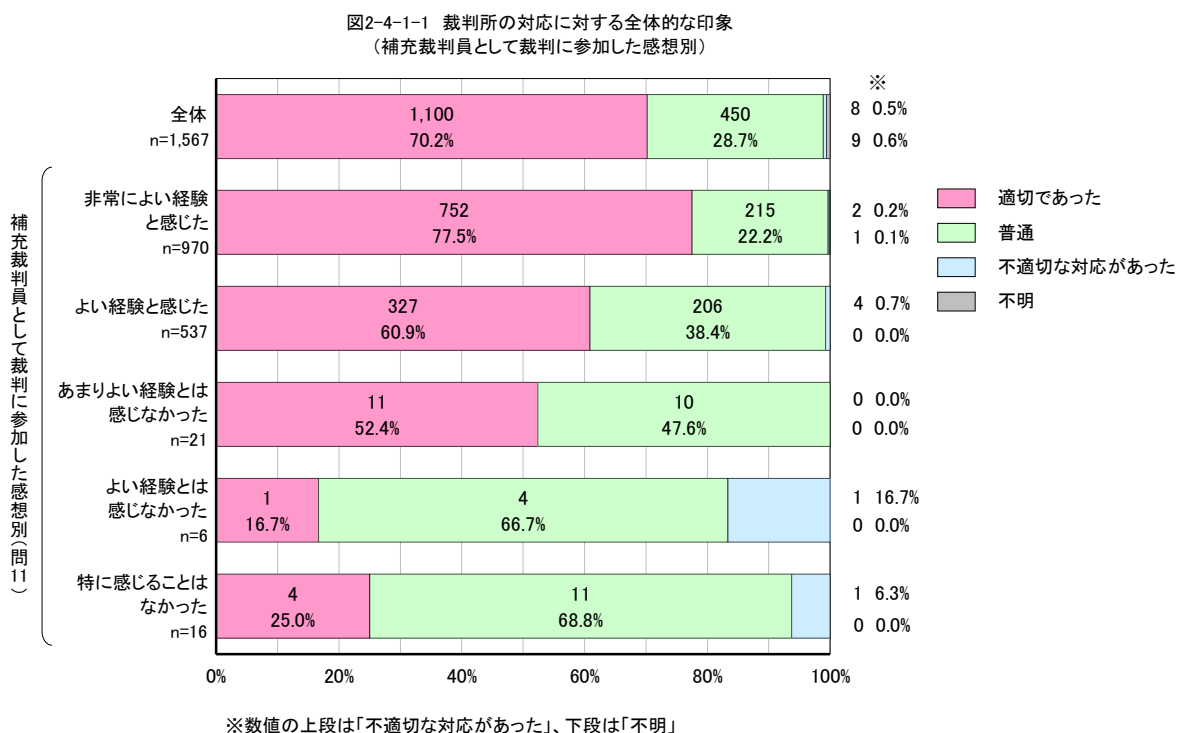
(i) 全体的な印象



【他のデータとのクロス集計】

『裁判所の対応に対する全体的な印象』を補充裁判員として裁判に参加した感想別でみたのが、図2-4-1-1である。

『よい経験』と感じたと回答した層で、「適切であった」と回答する割合が高い。



(ii) 裁判所の対応について感じたこと (問8-2)

裁判所の対応(裁判所からの情報の提供、裁判所職員の対応、裁判所の設備など)について、「ア 「裁判員候補者名簿への記載のお知らせ」が届いてから裁判員等選任手続期日の前日まで」、「イ 裁判員等選任手続期日当日」、「ウ 補充裁判員に選任されてから本日まで」の3つに分け、自由な意見を記載してもらった。

なお、記述内容を資料編の自由記載分類・整理表記載の項目別に分類した。

ア 「裁判員候補者名簿への記載のお知らせ」が届いてから裁判員等選任手続期日の前日まで
全1,567名中、回答があったのは629名である。

「事前送付物」に関するものが最も多く、職員の対応について「適切だった、気を遣ってもらった」がそれに続いている。

詳しくは、資料編の自由記載分類・整理表(200頁以下)を参照されたい。

イ 裁判員等選任手続期日当日

全1,567名中、回答があったのは645名である。

特に項目を特定することなく、「全般的に問題がなかった」が最も多く、職員の対応について「適切だった、気を遣ってもらった」がそれに続いている。

詳しくは、資料編の自由記載分類・整理表(201頁以下)を参照されたい。

ウ 補充裁判員に選任されてから本日まで

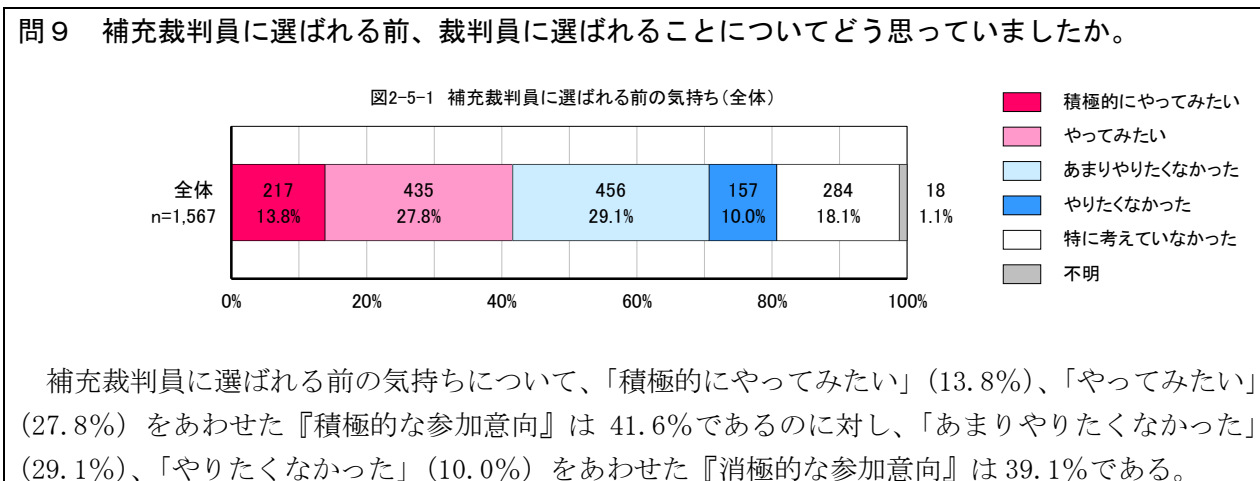
全1,567名中、回答があったのは708名である。

職員の対応について「適切だった、気を遣ってもらった」が最も多く、特に項目を特定することなく、「全般的に問題がなかった」がそれに続いている。

詳しくは、資料編の自由記載分類・整理表(203頁以下)を参照されたい。

(5) 補充裁判員を務めた感想等について

(i) 補充裁判員に選ばれる前の気持ち

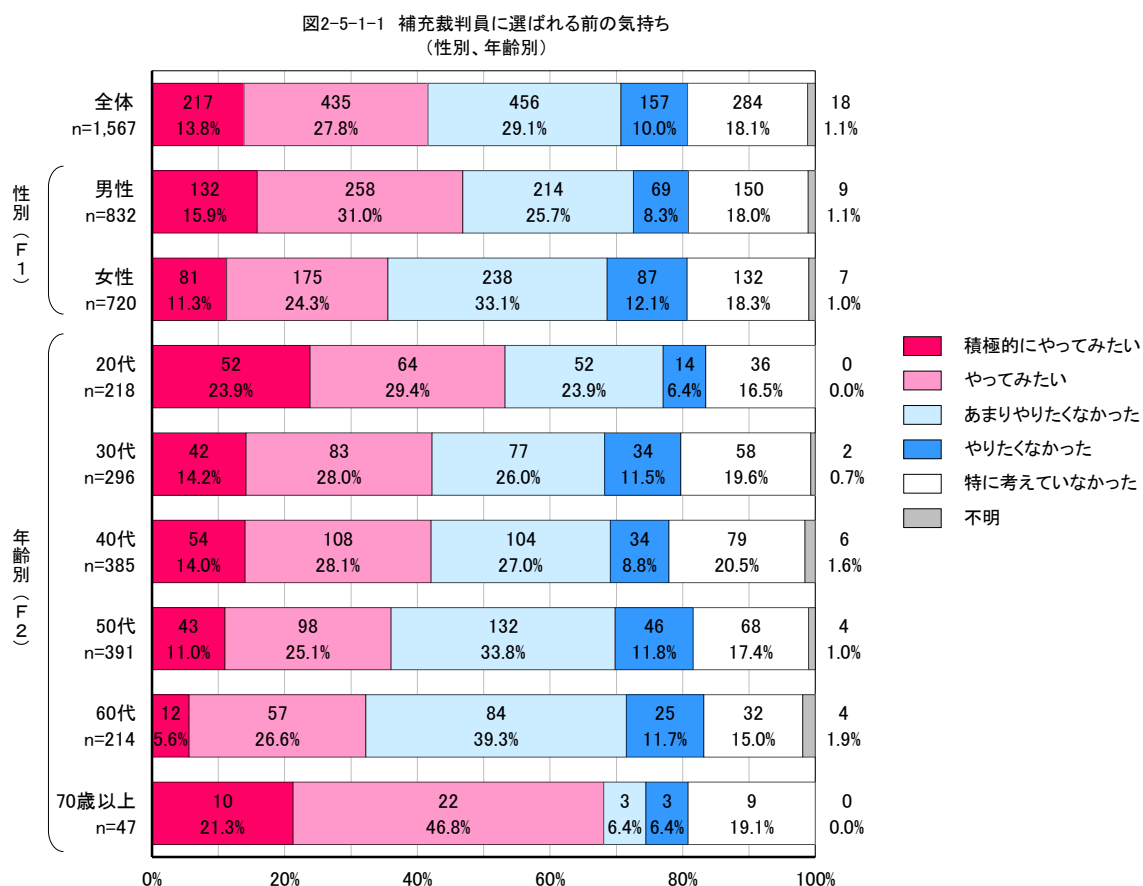


【他のデータとのクロス集計】

『補充裁判員に選ばれる前の気持ち』を性別、年齢別でみたのが、図2-5-1-1である。

性別でみると、男性のほうが『積極的な参加意向』(46.9%)が高く、女性のほうが『消極的な参加意向』(45.2%)が高い。

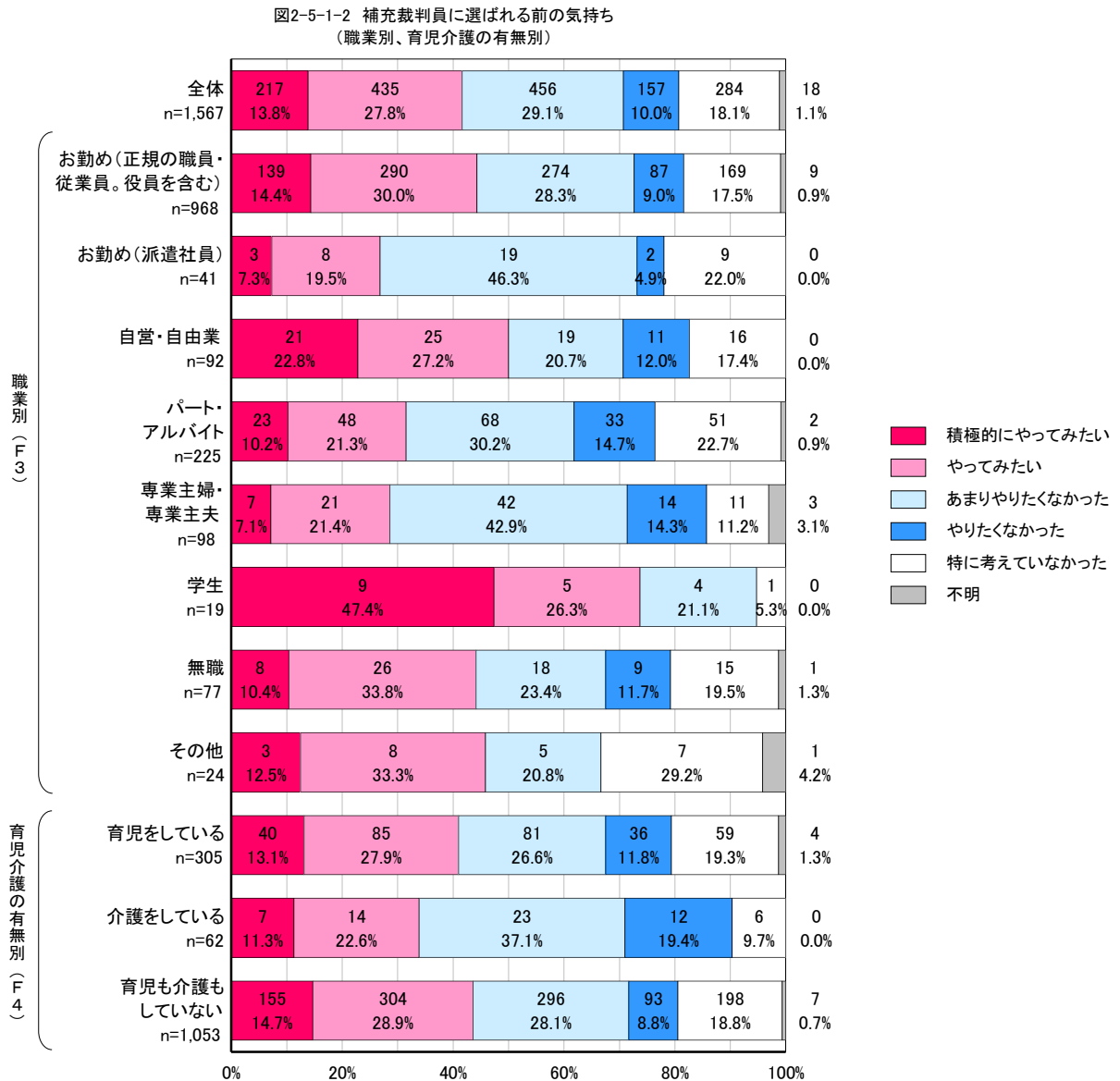
年齢別でみると、若年層ほど『積極的な参加意向』が高く、60代までは年齢が高くなるにしたがって低くなっている。なお、70歳以上の『積極的な参加意向』が突出しているが、70歳以上は、定型的に辞退が認められる事由であることに留意されたい。



『補充裁判員に選ばれる前の気持ち』を職業別、育児介護の有無別でみたのが、図 2-5-1-2 である。

職業別でみると、学生の層が 73.7%と最も高い『積極的な参加意向』を示しているが、学生は、定型的に辞退が認められる事由であることに留意されたい。以下、自営・自由業の層 (50.0%)、お勤め (正規の職員・従業員。役員を含む) の層 (44.4%)、無職の層 (44.2%)、パート・アルバイトの層 (31.5%)、専業主婦・専業主夫の層 (28.5%)、お勤め (派遣社員) の層 (26.8%) の順で『積極的な参加意向』は低くなっている。

育児介護の有無別では、介護をしている層の『積極的な参加意向』が比較的低くなっている。



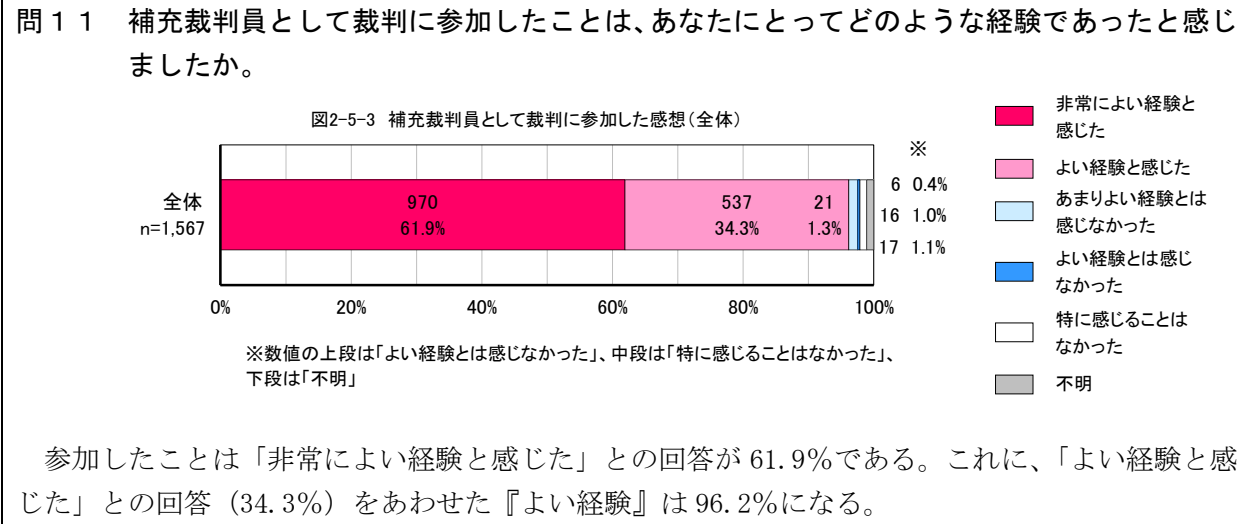
(ii) 問 9 で答えた理由 (問 10)

『補充裁判員に選ばれる前の気持ち』(問 9)の理由を自由に記載してもらったところ(問 10)、全 1, 567 名中、1, 477 名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表 (204 頁以下) 記載の項目別に分類したところ、裁判員に選任されることに対し、『積極的な参加意向』を示した理由として、「貴重な経験である、関心があった」が最も多く、逆に、『消極的な参加意向』を示した理由として「社会生活上 (育児介護、仕事など) の支障」が最も多い。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

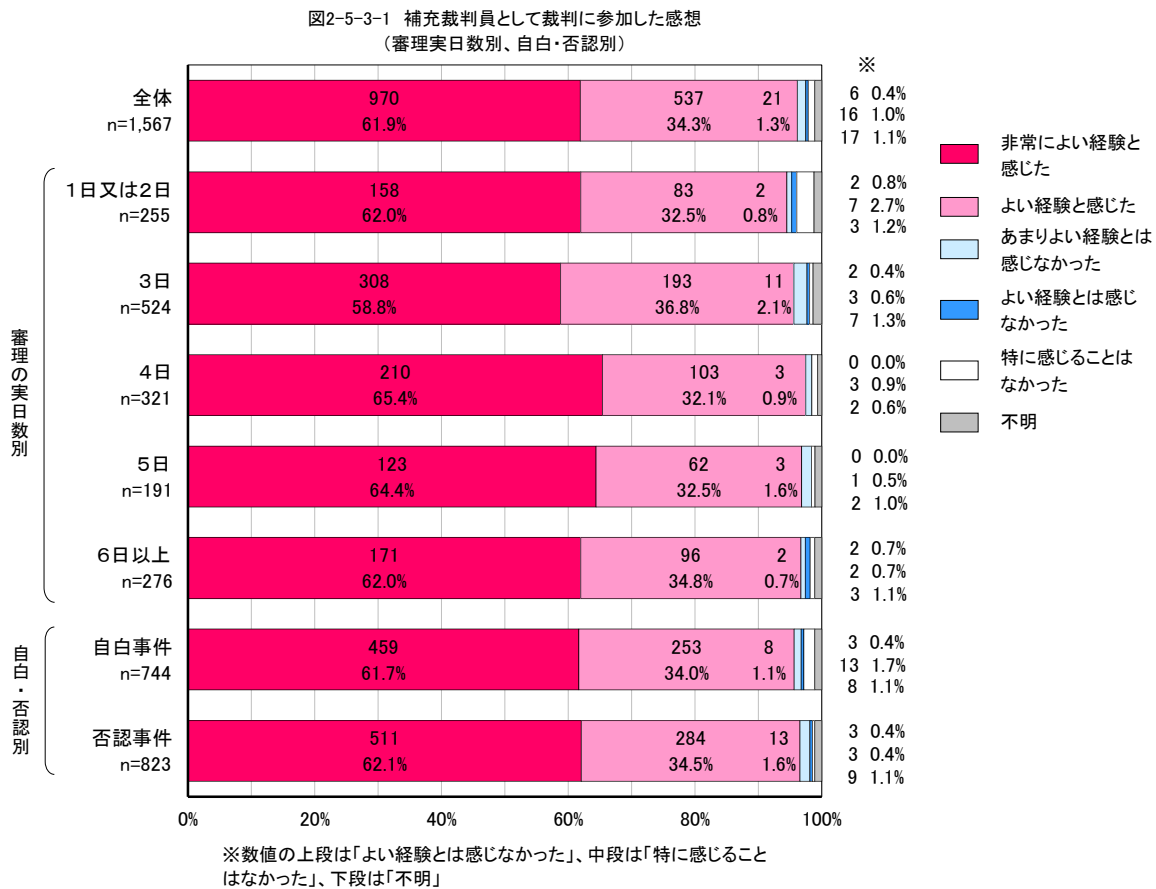
(iii) 補充裁判員として裁判に参加した感想



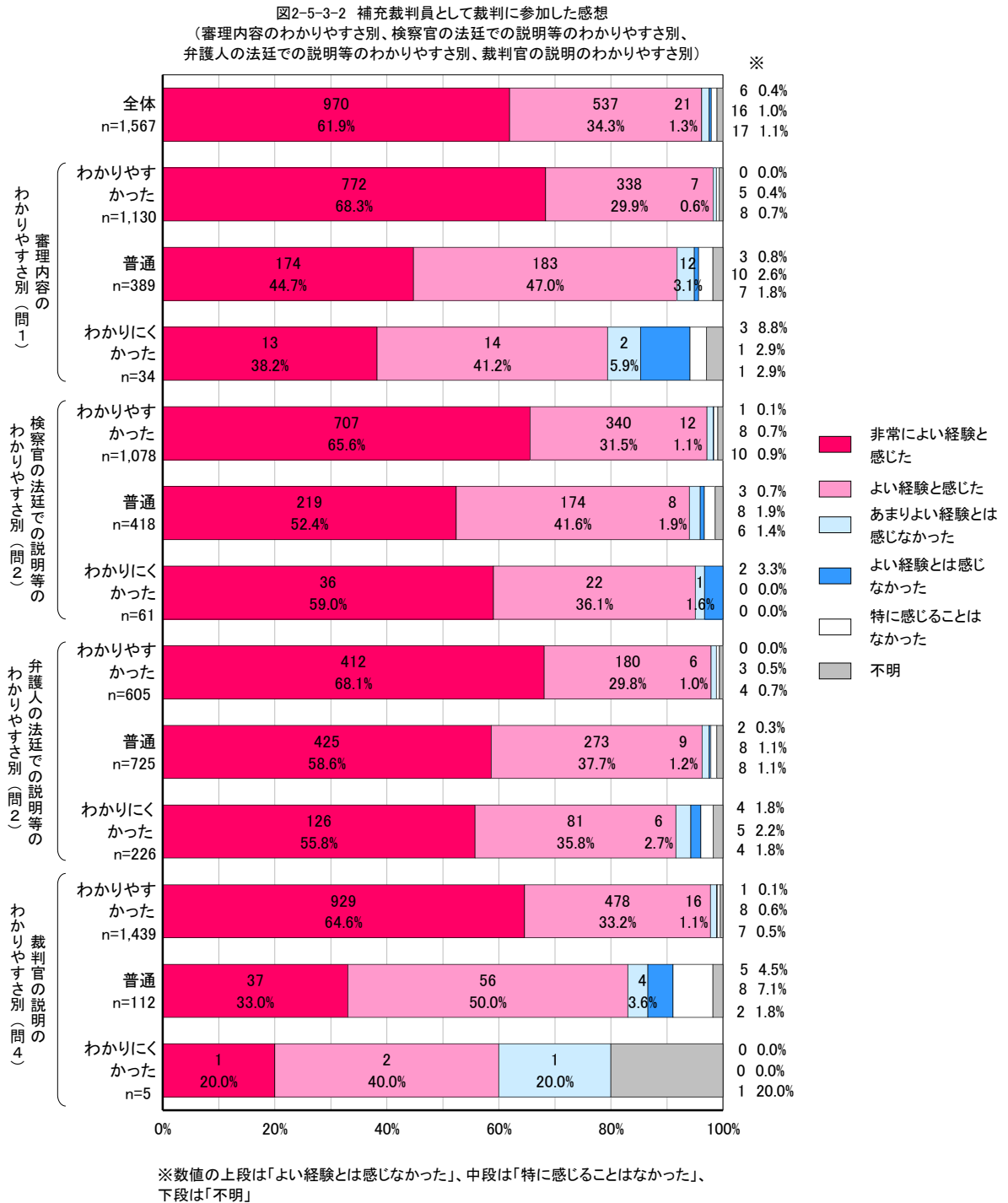
【他のデータとのクロス集計】

『補充裁判員として裁判に参加した感想』を審理実日数別、自白・否認別でみたのが、図2-5-3-1である。

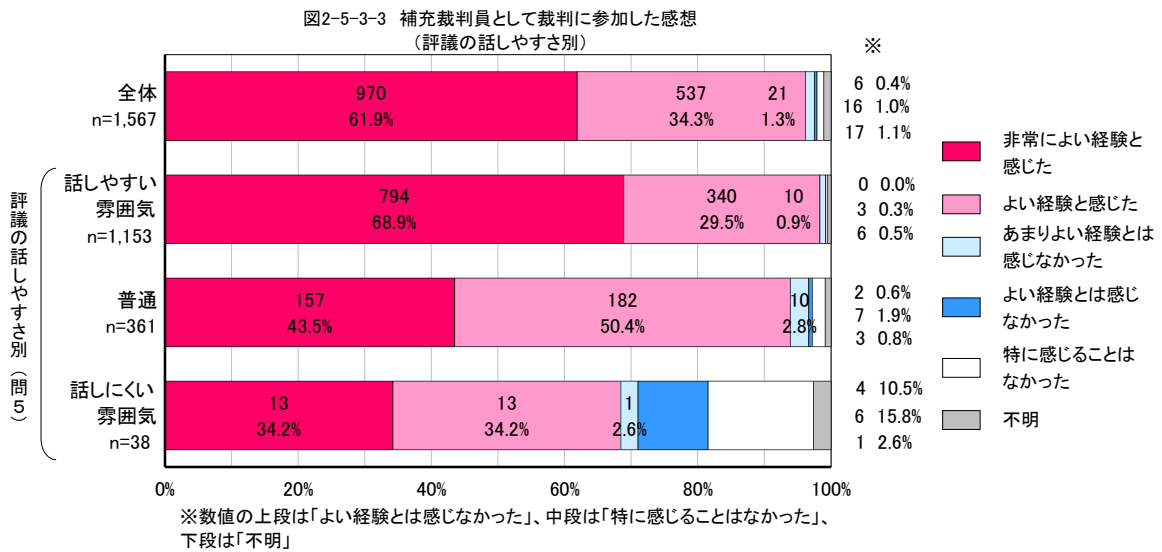
審理実日数別、自白・否認にかかわらず、94.5%かそれ以上が『よい経験』と感じている。



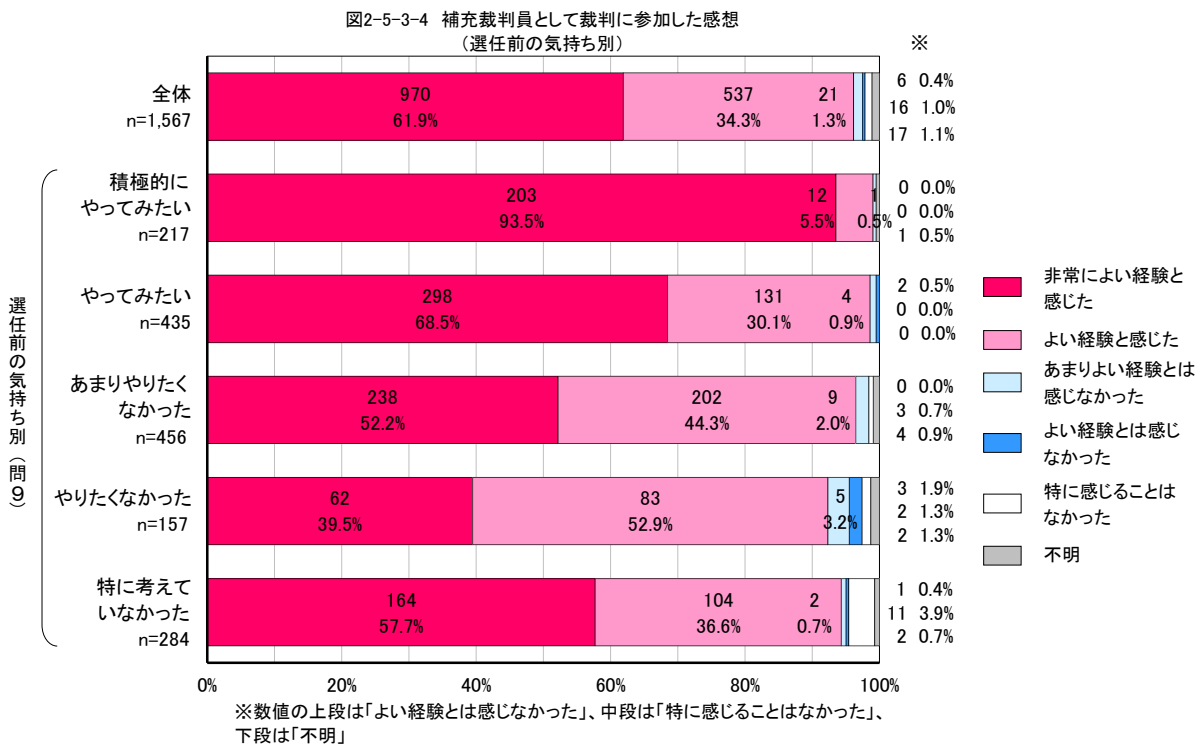
『補充裁判員として裁判に参加した感想』を審理内容のわかりやすさ別、検察官の法廷での説明等のわかりやすさ別、弁護人の法廷での説明等のわかりやすさ別、裁判官の説明のわかりやすさ別でみたのが、図2-5-3-2である。「わかりやすかった」「普通」と回答した層では、「非常によい経験と感じた」「よい経験と感じた」との回答が高い割合を占めている。特に「わかりやすかった」と回答した層では、「非常によい経験と感じた」と回答した者の割合が他の層よりも高くなっている。



『補充裁判員として裁判に参加した感想』を評議の話しやすさ別でみたのが、図 2-5-3-3 である。「話しやすい雰囲気であった」と答えた層では、「非常によい経験と感じた」と回答した者の割合が 68.9%と、他の層よりも高くなっている。



『補充裁判員として裁判に参加した感想』を選任前の気持ち別でみたのが、図 2-5-3-4 である。「特に考えていなかった」の層を除くと、選任前の参加意向が積極的な層ほど、「非常によい経験と感じた」と回答した者の割合が高くなっている。また、選任前に「やりたくなかった」と回答した層であっても、選任後は 92.4%が『よい経験』と感じたと回答している。



ア 補充裁判員として裁判に参加し、「よい経験」と感じた理由（問12-1）

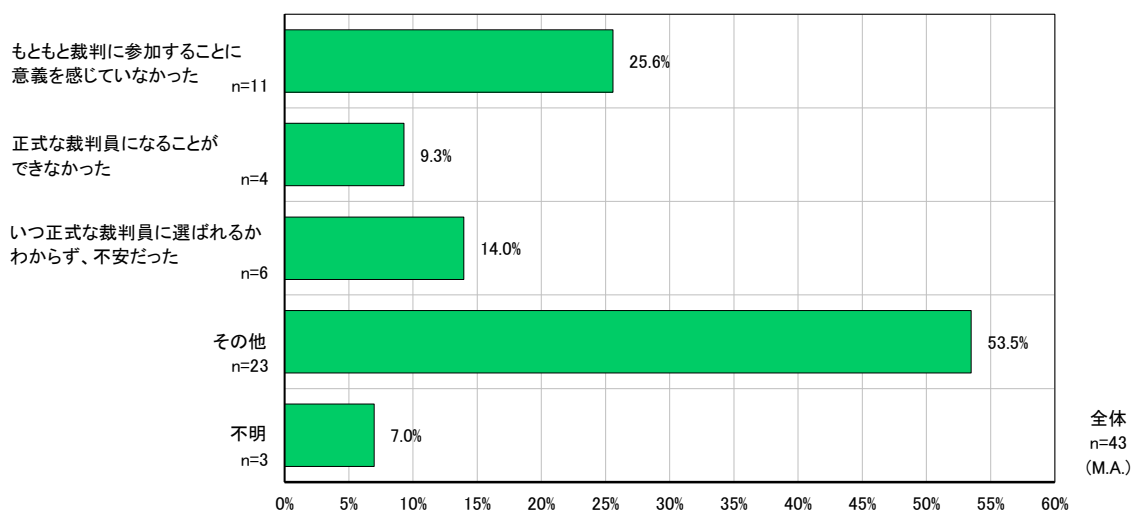
『補充裁判員として裁判に参加した感想』（問11）について「非常によい経験と感じた」「よい経験と感じた」と回答した1,507名にその理由を自由に記載してもらったところ、1,466名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表（206頁以下）記載の項目別に分類したところ、「裁判や裁判所のことがわかった、身近になった」が最も多く、「普段できない貴重な経験をした、やりがいがあった」がそれに続いている。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

イ 補充裁判員として裁判に参加し、「よい経験」と感じなかった理由

問12-2（問11で「あまりよい経験とは感じなかった」「よい経験とは感じなかった」「特に感じることはなかった」と答えた方に）その理由を次の中から、いくつでも選んでください。（M.A.）



補充裁判員として裁判に参加した感想で、「あまりよい経験とは感じなかった」「よい経験とは感じなかった」「特に感じることはなかった」と回答した43名にその理由を尋ねた。

「もともと裁判に参加することに意義を感じていなかったから」が25.6%、「いつ正式な裁判員に選ばれるかわからず、不安だったから」が14.0%、「正式な裁判員になることができなかったから」が9.3%であった。

『補充裁判員に選任された後の感想』（問11）について「あまりよい経験とは感じなかった」「よい経験とは感じなかった」「特に感じることはなかった」とした理由について（問12-2）で「その他」を選択した23名にその理由を自由に記載してもらったところ、22名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表（208頁以下）記載の項目別に分類したところ、「重い経験だった」を理由とするものが多かった。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

(6)その他の全般的な意見や感想など(問13)

全般的な感想について、自由に記載してもらったところ、全1,567名中、731名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表(208頁以下)記載の項目別に分類したところ、参加した感想が最も多く、裁判官・職員の対応に関する意見がそれに続いている。

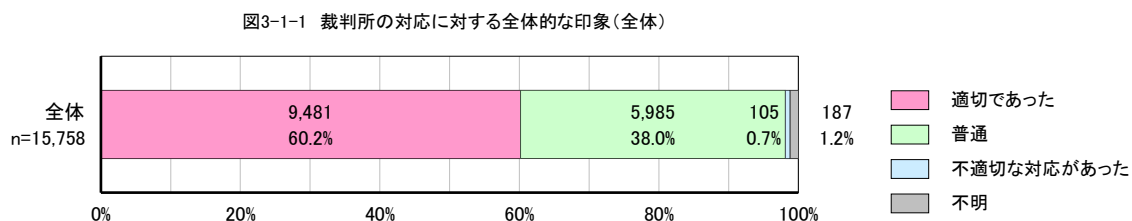
詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

3. 裁判員候補者に対するアンケート結果

(1) 裁判所の対応(裁判所職員の対応、裁判所からの情報の提供、裁判所の設備など)について

(i) 全体的な印象

問 1-1 全体的な印象はいかがでしたか。

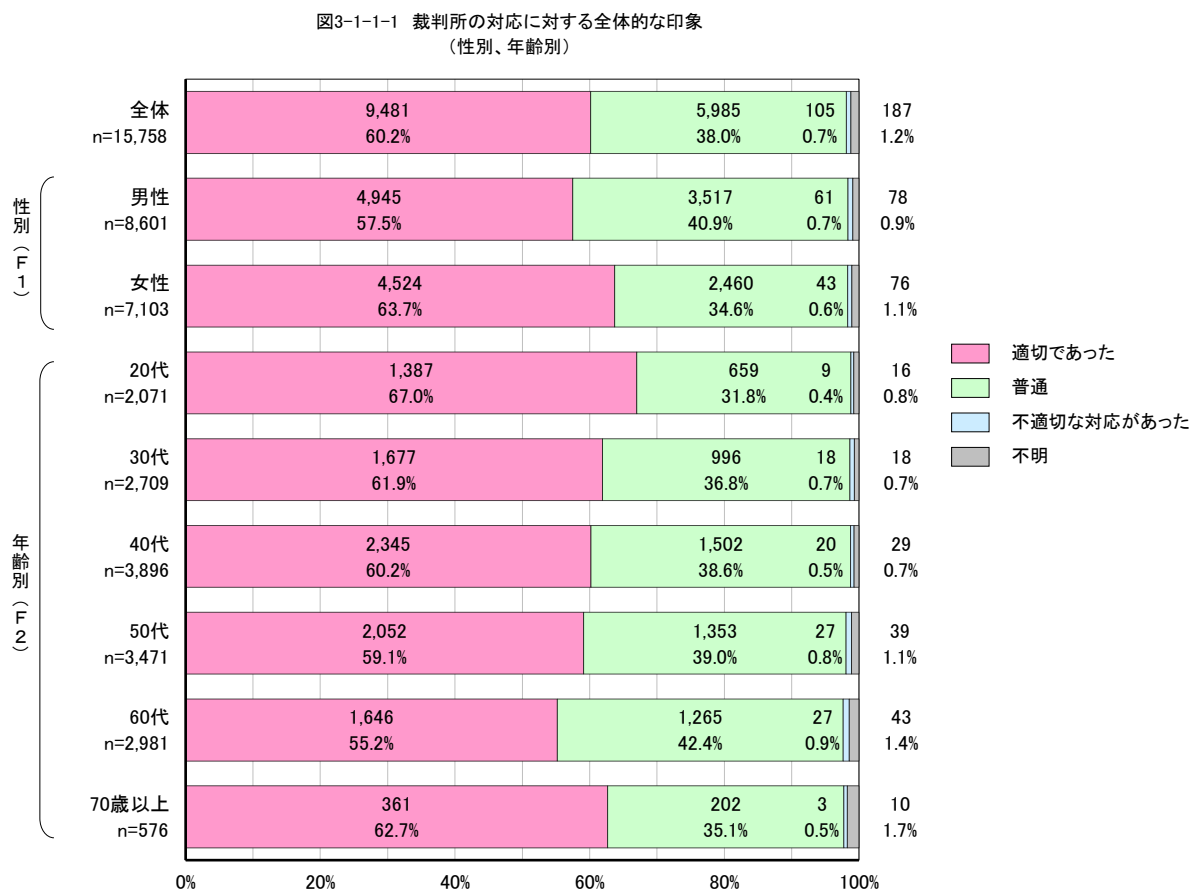


裁判所の対応について、「適切であった」との回答が60.2%（「普通」とあわせて98.2%）であったのに対し、「不適切な対応があった」との回答は0.7%であった。

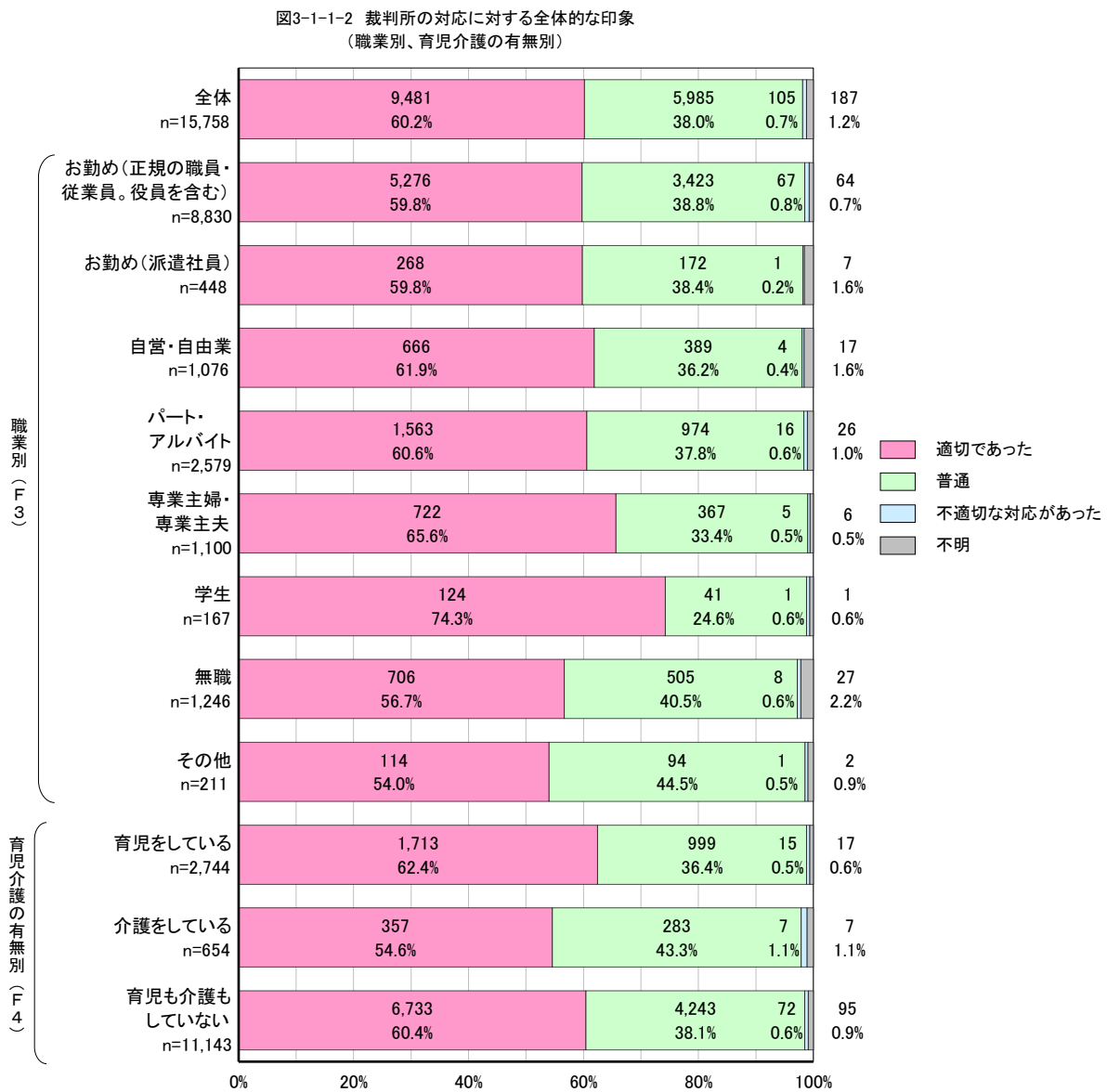
【他のデータとのクロス集計】

『裁判所の対応に対する全体的な印象』を性別、年齢別でみたのが、図 3-1-1-1 である。性別でみると、男性のほうが「適切であった」と回答した割合が低くなっている。

年齢別では、「適切であった」と回答した割合は、20代で67.0%と最も高く、60代では55.2%と最も低くなっている。

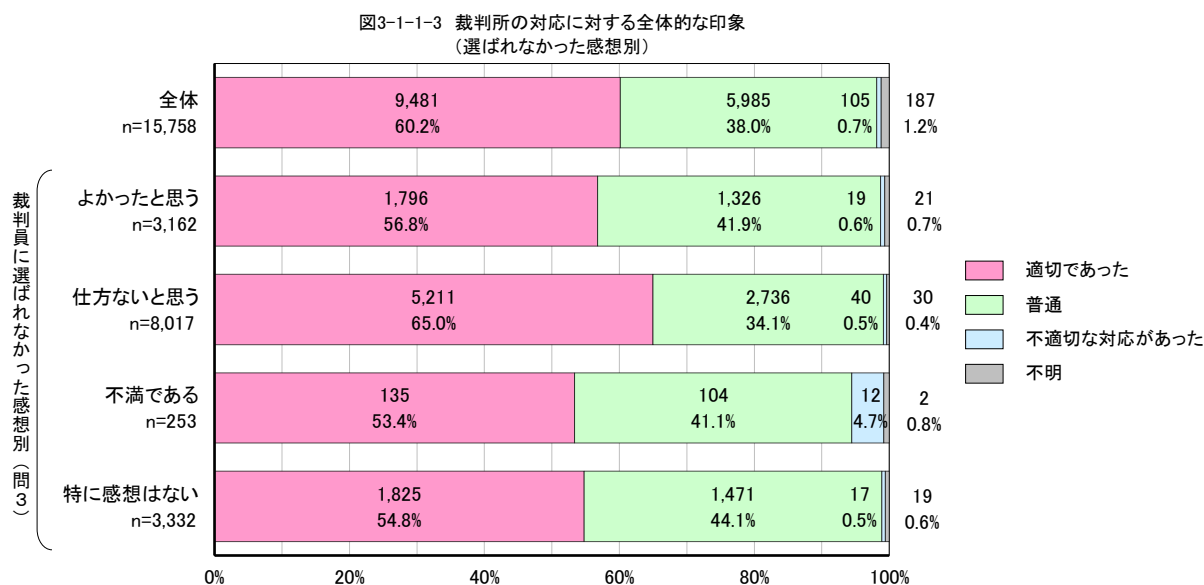


『裁判所の対応に対する全体的な印象』を職業別、育児介護の有無別でみたのが、図 3-1-1-2 である。職業別で比べると学生の「適切であった」と回答した割合が 74.3%と最も高い。育児介護の有無別では、介護をしている層で「適切であった」と回答した割合が低くなっている。



『裁判所の対応に対する全体的な印象』を裁判員に選ばれなかった感想別でみたのが、図3-1-1-3である。

裁判員に選ばれなかったことが「仕方ないと思う」と回答した層において、他の層よりも「適切であった」と回答している者の割合が高くなっている。



(ii) 裁判所の対応について「不適切な対応があった」と答えた理由 (問1-2)

裁判所の対応 (裁判所職員の対応、裁判所からの情報の提供、裁判所の設備など) について、「不適切な対応があった」と回答した105名に、その理由を自由に記載してもらったところ、101名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表 (211頁以下) 記載の項目別に分類したところ、「事前送付物」に関する意見が最も多かった。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

(iii) 裁判所の対応について感じたこと (問1-3)

裁判所の対応 (裁判所職員の対応、裁判所からの情報の提供、裁判所の設備など) について、「ア 「裁判員候補者名簿への記載のお知らせ」が届いてから裁判員等選任手続期日の前日まで」、「イ 裁判員等選任手続期日当日」の2つに分け、自由な意見を記載してもらった。

なお、記述内容を資料編の自由記載分類・整理表 (211頁以下) 記載の項目別に分類した。

ア 「裁判員候補者名簿への記載のお知らせ」が届いてから裁判員等選任手続期日の前日まで全15,758名中、回答があったのは2,472名である。

「事前送付物」に関するものが最も多く、職員の対応について「適切だった、気を遣ってもらった」がそれに続いている。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

イ 裁判員等選任手続期日当日

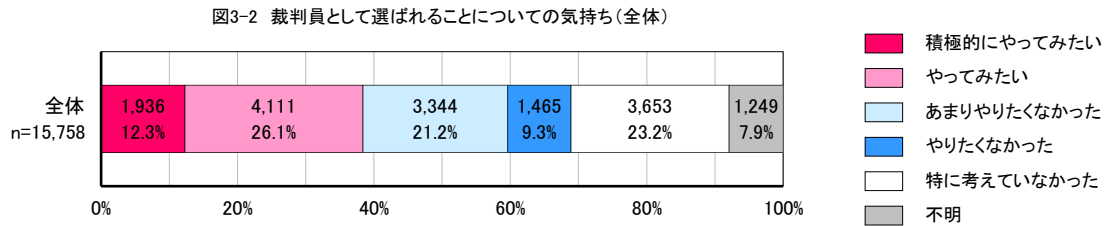
全15,758名中、回答があったのは2,538名である。

職員の対応について「適切だった、気を遣ってもらった」が最も多い。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

(2) 裁判員として選ばれることについての気持ち

問2 裁判員として選ばれることについてどう思っていましたか。



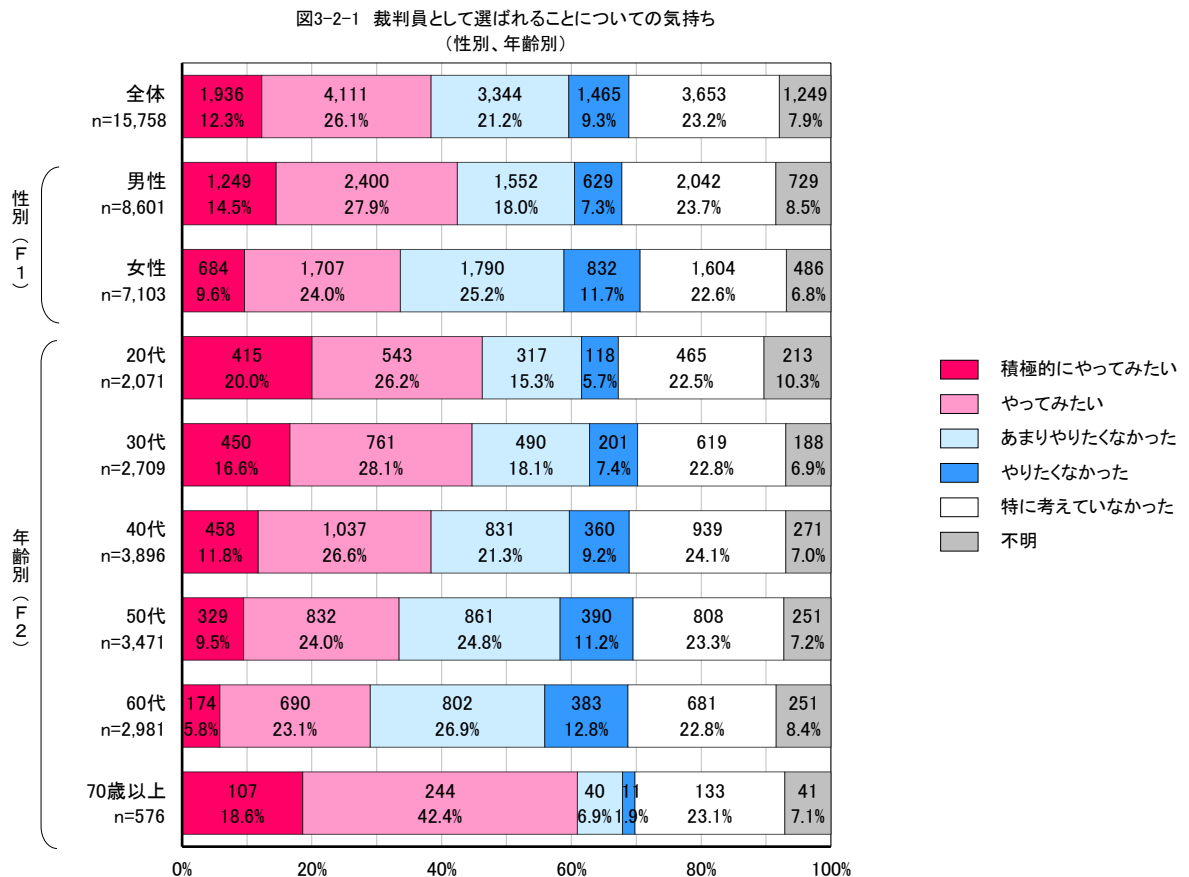
裁判員として選ばれることについての気持ちについて、「積極的にやってみよう」(12.3%)、「やってみよう」(26.1%)をあわせた『積極的な参加意向』が38.4%であるのに対し、「あまりやりたくなかった」(21.2%)、「やりたくなかった」(9.3%)をあわせた『消極的な参加意向』は30.5%である。

【他のデータとのクロス集計】

『裁判員として選ばれることについての気持ち』を性別、年齢別でみたのが、図3-2-1である。

性別でみると、『積極的な参加意向』(42.4%)は男性のほうが高く、『消極的な参加意向』(36.9%)は女性のほうが高い。

年齢別でみると、60代までは若年層ほど『積極的な参加意向』の割合が高く、『消極的な参加意向』の割合は低い。なお、70歳以上の『積極的な参加意向』は他の年代よりも高くなっているが、70歳以上は、定型的に辞退が認められる事由であることに留意されたい。

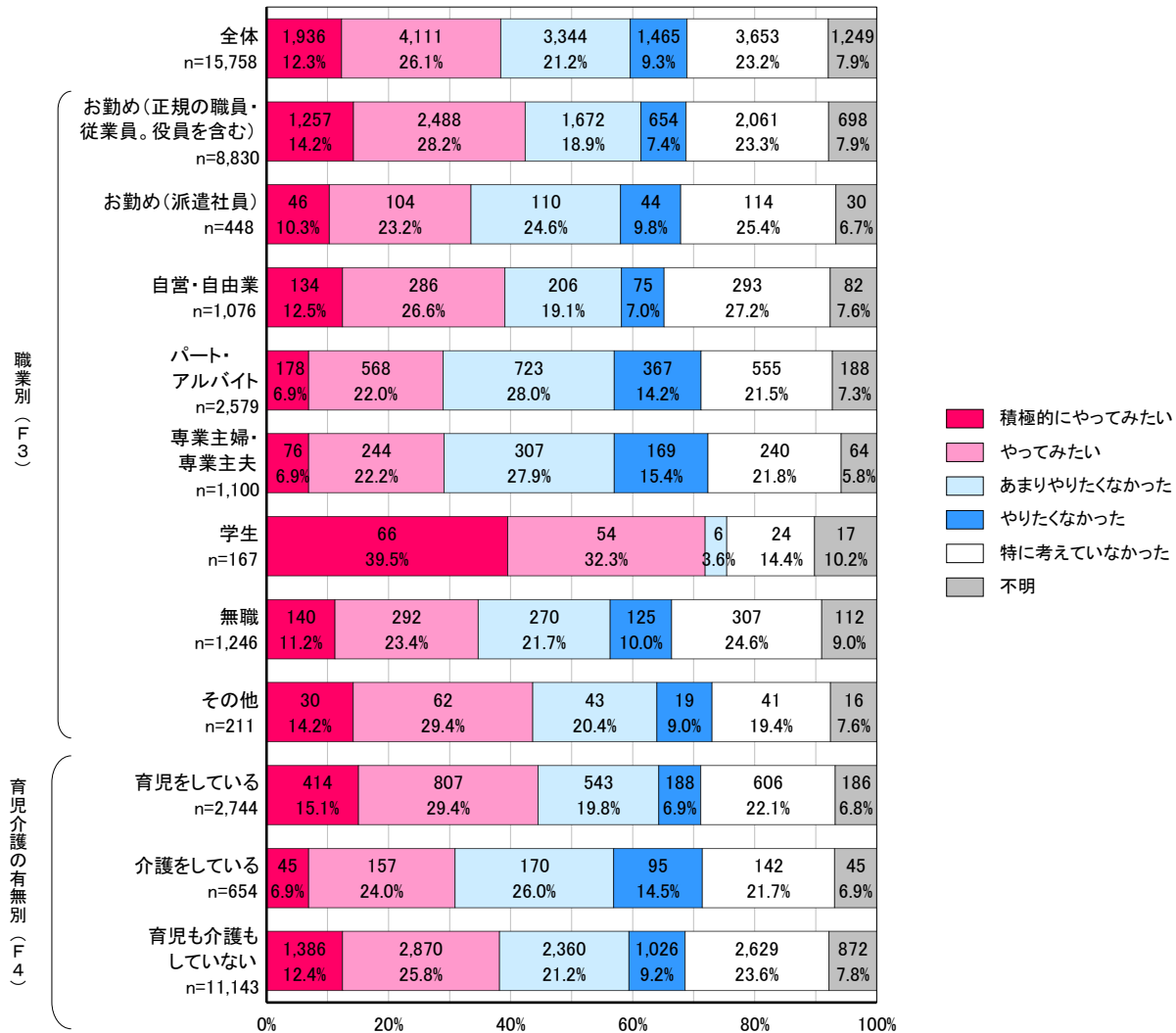


『裁判員として選ばれることについての気持ち』を職業別、育児介護の有無別でみたのが、図3-2-2である。

職業別でみると、学生の層の71.8%が『積極的な参加意向』を示しているが、学生は、定型的に辞退が認められる事由であることに留意されたい。その他の職業をみると、お勤め（正規の職員・従業員。役員を含む）の層の42.4%が『積極的な参加意向』を示しており、パート・アルバイトの層で28.9%と最も低くなっている。

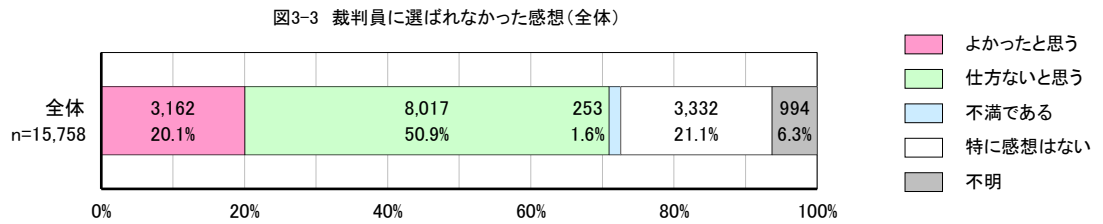
育児介護の有無別では、介護をしている層の『積極的な参加意向』が低くなっている。

図3-2-2 裁判員として選ばれることについての気持ち
(職業別、育児介護の有無別)



(3) 裁判員に選ばれなかった感想及び「不満である」と答えた理由

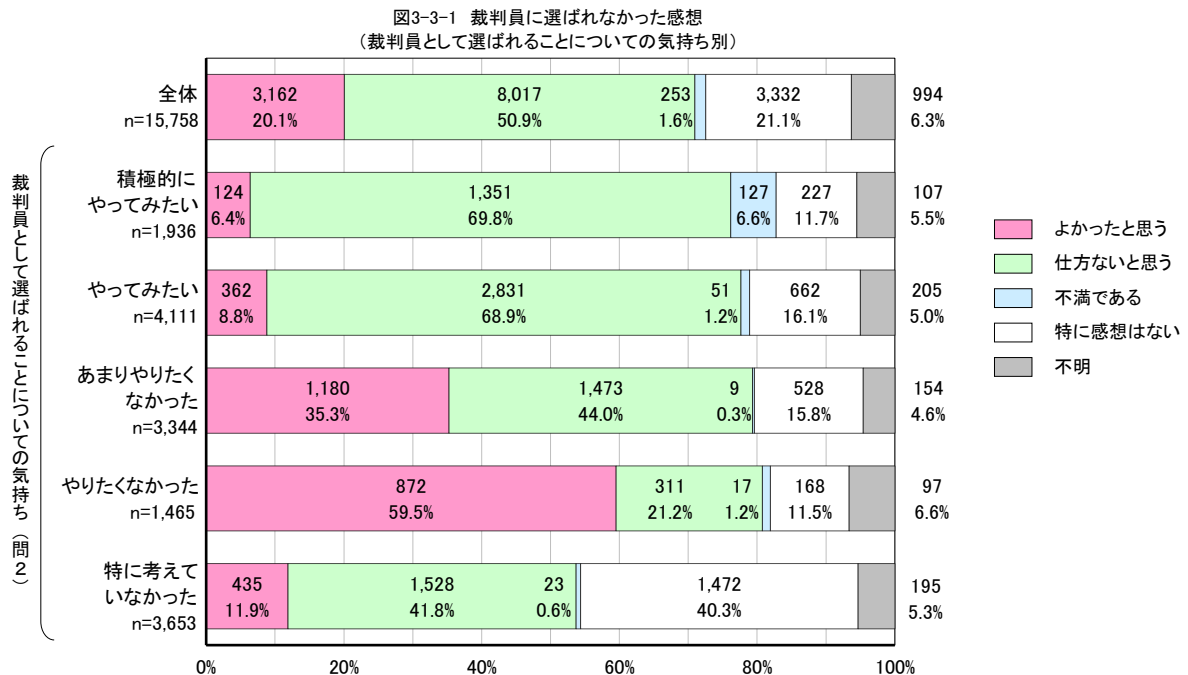
問3 裁判員に選ばれなかったことについて、現在どう感じていますか。



裁判員に選ばれなかった感想としては、「仕方ないと思う」との回答が最も多く、50.9%となっている。「よかったと思う」との回答が20.1%、「特に感想はない」との回答が21.1%、「不満である」との回答は1.6%である。

【他のデータとのクロス集計】

『裁判員に選ばれなかった感想』を裁判員として選ばれることについての気持ち別でみたのが、図3-3-1である。「積極的にやってみたい」、「やってみたい」をあわせた『積極的な参加意向』の層では65%以上が「仕方ないと思う」と回答している。一方、「やりたくなかった」と答えた層では59.5%が「よかったと思う」と回答している。また、「あまりやりたくなかった」と答えた層では、35.3%が「よかったと思う」、44.0%が「仕方ないと思う」と回答している。



『裁判員に選ばれなかった感想』(問3)について、「不満である」と回答した253名に、その理由を自由に記載してもらったところ、232名から回答があった。記述内容を資料編の自由記載分類・整理表(214頁以下)記載の項目別に分類したところ、「選ばれたかったから」が最も多く、「わざわざ日程を空けておいたから」がそれに続いている。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。

(4) その他の全般的な意見や感想など(問4)

全般的な感想について、自由に記載してもらったところ、全15,758名中、2,387名から回答があった。

記述内容を資料編の自由記載分類・整理表(215頁以下)記載の項目別に分類したところ、参加した感想が最も多く、制度の運用に関する意見がそれに続いている。

詳しくは、上記自由記載分類・整理表を参照されたい。